

# 同窓会報

No.24



豊橋技術科学大学



2007

# ＊豊橋技術科学大学同窓会会則＊

## 第1章 総則

- 第1条 本会は、豊橋技術科学大学同窓会と称する。
- 第2条 本会は、本部を豊橋技術科学大学内に置く。
- 第3条 本会は、会員相互の親睦を図り、豊橋技術科学大学の発展に寄与することを目的とする。

## 第2章 事業

- 第4条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。
- (1) 会員名簿の発行
  - (2) 会報の発行
  - (3) 総会の開催
  - (4) その他、本会の目的を達成するために必要とされる事業

## 第3章 会員

- 第5条 本会は、次の会員をもって組織する。
- (1) 正会員 豊橋技術科学大学にかつて学籍を置いた者
  - (2) 準会員 豊橋技術科学大学に現在学籍を置いている者
  - (3) 特別会員 豊橋技術科学大学の現職及び退職教官
  - (4) 賛助会員 本会の目的を賛助する個人または法人で、理事会において推薦された者
- 2 本会会員は、その所在を変更の都度、本会に通知する義務を負う。

## 第4章 組織

- 第6条 本会に次の役員を置く。
- (1) 名誉顧問（豊橋技術科学大学学長）
  - (2) 会長 1名
  - (3) 副会長 2名（庶務担当）
  - (4) 理事 原則として各系2名
  - (5) 顧問 若干名
- 第7条 本会の役員の出選は、次の各号に定めるところにより行う。
- (1) 名誉顧問は、現豊橋技術科学大学学長とする。
  - (2) 会長、副会長は、正会員のうちから理事会の推薦を得て会員の承認を得る。
  - (3) 理事は、正会員のうちから理事会が推薦した者及び会長の委嘱による者とする。
  - (4) 顧問は、役員経験者もしくは特別会員のうち理事会において推薦された者とする。

第8条 本会役員は任期は2年とする。但し留任は妨げないものとする。

第9条 本会の議決機関として理事会及び総会を開催する。

## 第5章 役員

- 第10条 会長は、本会を代表し、会務を総括する。
- 2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。
  - 3 理事は、理事会において意見を述べ、事務局及び本会運営の責務を負う。
  - 4 名誉顧問および顧問は、本会の運営について助言を与え、会長の要請に応じて本会の会務に出席し意見を述べることができる。

第11条 理事は、本会の次の具体的な業務の実行を担当する。

- (1) 庶務
- (2) 会計
- (3) 会報の編集、発行
- (4) 理事会、総会など重要な会務の開催及び召集
- (5) 会員名簿の管理

(6) 監査

(7) その他、本会の事業全般

2 各業務責任者は理事が担当し、業務遂行する。

## 第6章 理事会

第12条 理事会は、第6条に定められた役員により構成される。

第13条 理事会は、会長の要請により庶務担当が開催の責務を負う。

第14条 理事会は次の事項を審議する。

- (1) 本会の事業の運営に関する事項
- (2) 事業報告及び決算報告
- (3) 事業計画案及び予算案
- (4) 賛助会員の推薦に関する事項
- (5) その他、本会の運営に関する議案

第15条 理事会の議決は、理事会に出席している役員の過半数の賛成を必要とし、可否が同数のときは、議長が決める。理事会の議長は会長が務める。理事会に欠席した役員の議決は、出席している役員の総意に委ねたものとみなす。

## 第7章 総会

第16条 総会は、定期総会と臨時総会とし、会長が召集する。

- 2 定期総会は、4年に1回開催することを原則とする。
- 3 臨時総会は、会長が、その必要を認めた時、開催する。
- 4 会長は、総会を召集するとき、事前に文書で正会員に通知しなければならない。

第17条 総会は次の事項を審議し、承認または議決する。

- (1) 会則の制定・改廃
- (2) 事業計画及び収支予算案
- (3) 事業報告及び収支決算案
- (4) その他、本会の運営に関し重要な事項

第18条 総会の議事は、出席正会員の過半数で決め、可否が同数のときは会長が決める。議長は、会長が務める。

## 第8章 会計

第19条 本会の運営に必要な経費は、会費、寄付金、その他の収入をもってこれに充てる。但し、必要に応じ、理事会での議決、総会での承認を得て臨時費を徴収することができる。

第20条 本会の正会費は、次のとおりとする。

- (1) 入会金 5,000円
- (2) 終身会費 10,000円

2 会費の納入は入学時に一括して行う。在学中は、準会員としての資格を得る。

第21条 既納の会費は原則として返納しない。但し、準会員が、卒業もしくは修了以前に学籍を離れる場合に限り、半年以内に請求があれば、返納する。その場合、会員資格を失う。

第22条 本会の会計年度は、4月1日に始まり翌年3月末日に終る。

## 第9章 雑則

第23条 本会会則の改訂は、理事会の議決を経て総会の承認を必要とする。

第24条 本会会則施行に必要な事項は、理事会の議決を経て会長が定める。

## 付則

- 1 本会則は、平成4年12月19日の総会において会則改訂の承認を得て、平成4年12月20日から施行する。
- 2 平成4年度及び5年度在学学生は、第20条における会費の納入を卒業、修了時に一括して納入する。

## 最近の大学事情



豊橋技術科学大学同窓会名誉顧問

学長 西 永 頌

はじめに昨年10月6日に挙行された本学の開学30周年記念式典と関連行事についてご報告します。まず、最初に行われた記念講演会ですが、もと東京大学総長、現独立行政法人産業技術総合研究所理事長の吉川弘之先生より「21世紀の科学技術と今後の大学像」と題するお話がありました。引き続き行われた記念式典では、文部科学省清水潔高等教育局長はじめ地元の前川勝市長、山本明彦衆議院議員など各界の方より祝辞を頂きました。その後、祝賀会が開かれましたが、後藤泰男同窓会会長からのご挨拶など本学に関係の深い方々からのご祝辞を頂きました。一連の行事を通して、各界の方々に本学の特徴、30年の歩み、現在の姿、今後の歩みなどについてお知らせできたことは大きな喜びです。また、式典のときの奏楽、祝賀会での演奏など本学の吹奏楽団（団員約70名）に演奏して頂きました。本学の学生の課外活動状況もお知らせすることができ有意義な企画でした。

さらに、式典と祝賀会の間の休憩時間を利用して、パワーポイントを使った本学の記念事業の紹介、建築予定の学生交流会館の模型やパネルなどの展示を通して開学30周年記念事業の一端をご紹介します。また、初代榊米一郎学長、第二代本多波雄学長、第四代後藤圭司学長、小林陽太郎名誉教授はじめ沢山の名誉教授、元教職員の皆さんがご出席くださり本学教職員との楽しい交流のひと時を過ごしました。

開学30周年記念事業につきましては、同窓生の皆さんに募金のお願いをした折、カラーの事業説明書を同封しましたので、その概要はすでにご存かかと思いますが、その三本の柱は、(1)産官学連携の推進、(2)地域連携の推進および(3)学生支援です。同窓生の皆さんには特に(1)、(3)でご協力頂きたいと思います。(1)では、現在、多くの企業、自治

体と協力し共同研究を遂行していますが、30周年を契機に共同研究を倍増することを計画しています。その手段ですが、多くの企業や自治体と包括協定を結び、産学連携コーディネーターの協力のもと、定期的に連携連絡会を開催し、お互いの連携をどう進めるかを議論しています。また、地もとの3つの信用金庫とも包括協定を結び、地元中小企業のニーズと本学のシーズを結ぶ努力をしております。

同窓生の皆さんは、各企業や自治体の第一線で働いておられると思います。是非、本学とのパイプ役となって、皆さんの職場のニーズを本学にぶつけてみていただければ有難く思います。まず、技術相談からはじめ必要に応じて共同研究に進むような事例が多く出てくると社会貢献の実績として高い評価が得られると思います。

学生支援の目玉は学生交流会館の新設で、基本的な構想の策定とデザインを建設工学系松島研究室にお願いしています。ほぼ、構想は固まってきており、今年度中に着工、来年度の始めには竣工を予定しています。募金の集まり具合にもよりますが、運動場に最低2基程度の照明灯を設置し、冬の間、放課後でも練習ができるような環境を作りたいと考えています。

また、(1)、(2)に関わりますが、開学30周年記念事業の一環として、平成18年10月1日付けで先端農業・バイオリサーチセンターおよび先端フォトリサーチセンターを設置しました。前者は農業と工業の境界領域を開拓しようとするもので、後者は次世代の大容量メモリーを実現することを目的としています。また、後者は企業メンバーに多数加わっていただくセンターで、今までにない新しい形態のセンターです。終わりに、皆さんのますますのご活躍を祈ってご挨拶とします。

# 第一工学系

## 機械システム(旧エネルギー)工学系より

### 学内近況報告

機械システム工学系 竹市 嘉紀

卒業生・修了生の皆様、お元気にお過ごしのことと存じます。冒頭から私事で申し訳ございませんが、豊橋技術科学大学に職を得てちょうど10年目になりまして、ついにこのような原稿執筆の順番が回ってくるようになったかと、まさに光陰矢のごとしを実感します。折しも大学は開学30周年を迎えることになり、様々な準備が着々と進められています。同窓会の皆様にも何かとご協力をお願いさせていただくかと思いますが、無理のない範囲でご協力いただければ幸いです。

現在、機械システム工学系で全教員が総出で取り組んでいるものに日本技術者教育認定制度（JABEE）への申請準備がございます。この秋に正式に審査を受けることが決まり、その資料作りに追われています。既に授業カリキュラムの見直しは行われ、2年前から新カリキュラムでの授業が始まっております。昨年からは新設授業として「機械システム工学創造実験」や「機械工学課題研究」といった体験型の授業が始まっており、今までにない授業スタイルということもあってか、受講した学生さんからはおおむね好意的な評価をいただきました。JABEEでは自身の授業をより良いものにする継続的な取り組みが以前にも増して必要になり、良い勉強になっています。但し、資料作りの大変さに皆さん疲れ気味ですが…。

最初に書くべき内容でしたが、今年度はじめに教員の異動がございまして、4月にエネルギー変換工学講座に名田譲先生が助手として着任されました。また、5月には機器設計学講座で助教授をしておられました関東康祐先生が茨城大学工学部機械工学科に教授とし

てご栄転されました。最後に、4月に行った関東先生の送別会で撮影した写真を教員ならびに事務員からのご挨拶代わりとして近況報告を終わらせていただきます。



#### [第一講座：熱・流体工学講座]

教授：三田地紘史、日比昭、北村健三  
 助教授：中川勝文、柳田秀記、鈴木孝司  
 助手：伊藤高啓、山本高久

#### [第二講座：エネルギー変換工学講座]

教授：蒔田秀治、高木章二、野田進  
 助教授：鈴木新一、関下信正、内山直樹  
 助手：佐野滋則、名田譲

#### [第三講座：機器設計学講座]

教授：本間寛臣(工学教育国際協力研究センター)、  
 上村正雄(系長)、河村庄造  
 講師：竹市嘉紀、感本広文  
 助手：ホサイン・MD・ザヒド(研究基盤センター)  
 教務職員：グナワン・フェルギアント・エフェンデ

[技 官] 徳増学、神谷昌宏

[事 務] 半田恵子、野亦真理子

## ドイツ滞在記

機械システム工学系 感本 広文

卒業生・修了生の皆様、お元気でお過ごしでしょうか。卒業生・修了生の皆様の中にも海外でご活躍あるいは既に海外勤務をご経験された方も多数いらっしゃるかと存じますが、私も2006年、のべ7ヶ月間ドイツに滞在する機会を得ました。私は1995年に本学博士課程を修了し、10年間本学に勤務してまいりました。そして勤務11年目にして初めて比較的長期間本学を離れることになりました。

今回の滞在は、2006年3月末から5月末までの2ヶ月間と、7月から11月末までの5ヶ月間の2回に分かれ、合わせて7ヶ月ですが、7ヶ月の滞りにこぎつけるまでにかかった長い時間も今から思うと印象深いものでした。

道のり：きっかけは、私が所属する機械ダイナミクス講座、河村教授に海外での研究経験を勧めていただいた事でした。渡航先、時期、研究テーマ、資金の検討をはじめましたが、やはり一番のハードルは資金の問題でした。河村先生から教えていただいた一つの応募選肢がドイツのフンボルト財団でした。そして、その時私は、ドイツ・シュトゥットガルト大学のSeifried先生と共同研究を始めようとしていたので、2005年5月に申請したのですが、残念ながら11月に不採択通知が届きました。この申請には、国内外の先生方から推薦書をいただいたり、採択された場合のことを考えて系内の先生方に業務予定等で無理なお願いをしたり、受け入れ予定先のStuttgart大学、Institute of Engineering and Computational Mechanics (工学・計算力学研究所)のPeter Eberhard教授、Seifried先生とも申請書や研究計画書を何度も練って、時間と労力を注いだけで大変ショックでした。しかし、これに懲りず、別の申請を探そうと先方からも励ましの連絡をいただき再び申請のチャンスを探すことにしました。

そして、まずは先方から、DFG (Deutsche Forschungsgesellschaft, 英訳: German Research Foundation) – SFB404 (Sonderforschungsbereiche,

英訳: Special research Units) の外国人研究者招聘への申請について連絡をいただき、次いでこちらで文部科学省の海外先進研究実践支援プログラム (旧在外研究) の募集があり応募することにしました。

結果、2006年2月にDFG-SFB404の申請が採択され、3月末から5月末まで2ヶ月間Stuttgart大学に招聘していただくことが出来ました。そしてStuttgart大学滞在中の4月に文部科学省の申請採択の知らせを聞き、7月から11月末までの5ヶ月間再度シュトゥットガルト大学で研究を行う機会を得ました。長い道のりだった分、喜びも大きなものとなりました。

Stuttgart: 自動車関連の方にはお馴染みですが、Stuttgartはダイムラークライスラー、ポルシェの本社があるドイツ南西部の自動車都市です。人口は約50万人で経済的にも安定し、治安も良くドイツでも最も安全な都市の一つです。7月に行われたサッカー・ワールドカップでは、Stuttgartのサッカースタジアムで3位決定戦が行われました。Stuttgart大学は元々中央駅に近い市街地にありましたが、施設拡大のため30年ほど前に郊外に新たにキャンパスを設け、実験スペースを必要とする工学系学部の多くが郊外のキャンパスに移りました。私の所属する研究所も郊外のキャンパスです。駅前校舎に比べて静かで自然環境がよく、建物や設備も比較的新しいですが、近くに飲食店が少なく、ショッピングセンターもないため買い物は不便です。

研究所: 私の所属するInstitute of Engineering and Computational Mechanics (工学・計算力学研究所) は、二十数年前に機械動力学の分野で著名なW. Schiehlen教授によって創設され、マルチボディーダイナミクスと車両動力学の分野ですぐれた業績をあげています。Schiehlen教授は2002年に退官されましたが、現在も名誉教授として引き続き、研究指導ならびに講義を担当されております。職員はPeter Eberhard教授以下、主力の博士職員2名、そしてDiploma取得後、博士号取得をめざす20代後半の若手職員が23名と、Stuttgart大学の中では比較的小規模の研究所です。職員はドイツ人以外にイラン、ブラジル、ヨルダン、中国と多彩な人々からなり、私の様な客員研究員も様々な国から常に数名受け入れており、更に世界色豊かな構成です。

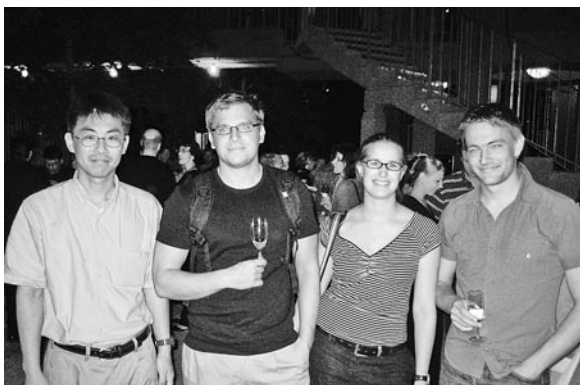
研究所のメンバーは皆で揃って学食にランチに行

き、非常にまとまりが良いです。また、数週間に一回程度のペースで飲み会が企画され、日常の何気ないこと（お酒、習慣、言葉、文字etc,,）について楽しみながらも真剣に議論している姿が印象的でした。その中で、力学に出てくるモールの応力円で有名なモール先生は、Stuttgart大学の教授だったということを知り、Stuttgart大学を非常に身近に感じました。

研究：私は物体の衝突に関する研究を行っています。棒と球が繰り返し衝突すると反発特性がどのように変化するかを調べています。Stuttgart大学には瞬時の衝突現象を計測するためにロングスパンのレーザー・ドップラー式振動計測装置があり、衝突時の物体の反発特性を非接触で精度よく計測することが出来ます。こうしてEメールでのディスカッションとシミュレーションがメインだった共同研究が、実験面でも進展し成果が上がりつつあります。

研究所内でのプレゼンテーションでは、幸いにも多くの方に興味を持って聞いていただく事ができました。発表後の討論の時間にも本質的な事柄に関する質問をいくつかうけた後、プレゼン終了後も会場で討論。会場から研究所に戻ってから別の人が来て「さっきの＋は僕の考えじゃあ\*\*\*なんだけど,,,」とディスカッション勃発。翌日にはまた別の人がやってきて「あのプレゼンの実験装置のことだけ,,,」, ドイツ(ヨーロッパ)人の議論好きを目の当たりにしました。

この会誌が出来上がる頃は、私も技科大に戻っていることと思います。今回の渡航・滞在中、学内、同窓会等の仕事に対し、多くの方々にご協力いただいたことに、深く感謝いたします。



研究所の人々とのスナップ写真

## 平成19年度就職先一覧

修 士	
アイシンエイダブリュ(株)	石川島播磨工業(株)
ELBEC 教育図書センター(株)	SRI スポーツ(株)
エヌオーケー NOK (株)	エヌティーエヌ NTN
川崎重工業	久世ペローズ(株)
ケーワイビー(株) KYB	(株)神戸製鋼所
コベルコクレーン(株)	コベルコ建機
CDS (株)	(株)ジェイテクト
新日本石油	SONY EMCS (株)一宮テック
スズキ(株)	デンソー
東芝機械(株)	東陶機器(株)
独立行政法人水資源機構	トヨタ自動車(株)
豊田自動織機	トヨタテクニカルティバロブメント
日亜化学工業(株)	日揮(株)
新東工業(株)	日本製紙(株)
日本特殊陶業(株)	日立製作所
ファナック(株)	富士機械製造(株)
ブラザー工業(株)	古河電気工業(株)
マキタ	松下エコシステムズ(株)
三菱重工業(株)	三菱電機メカトロニクスソフトウェア(株)
武蔵精密工業(株)	安川電機

学 部	
愛三工業(株)	アイシン高丘
NOK (株)	協豊製作所
(株)クオリ	グンゼ(株)
公務員：香川県警	ダイキン工業
デンソーテクノ(株)	東日本旅客鉄道株式会社
三菱自動車工業	ミュキエンジニアリング

## 第1工学系同窓会事務局より

### H17年度収支報告

収 入 の 部	
平成16年度からの繰越金	¥4,266,820
終身会費 (H16年度入会者計52名分)	¥520,000
追加入会費 (5名分)	¥75,000
利息 (定期預金, 普通預金)	¥26
収 入 合 計	¥4,861,846

支 出 の 部	
会報印刷費	¥47,420
会報発送関連費	¥165,180
アルバイト代・謝金	¥28,000
次年度繰越金	¥4,621,246
支 出 合 計	¥4,861,846

# 研究室だより

## 混相流工学研究室

機械システム工学専攻 1年 原田 敦史

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場において大いにご活躍されていることと存じます。

現在、混相流工学研究室では中川勝文助教の下で、修士2年4名、修士1年3名（ウズベキスタンからの留学生1名）、学部4年4名、フィリピンからの日本語研修生1名の合計13人で研究に励んでいます。

現在、本研究室では、主として以下のテーマで研究活動を行っています。

1. 冷凍サイクルに適用されるエジェクタの開発
2. オイルミストの捕集
3. マイクロバブルの計測

研究成果は、機械学会や伝熱学会などで発表を盛んに行っています。これからも多くの研究成果を発表するために研究を活発に行っていきたいと思っています。

研究以外については、年間行事として研究室旅行、TUTプロレス、そしてイベントがある度に親睦会等を行い、他研究室に見られないほど先生との距離が近くフレンドリーで明るい雰囲気の研究室となっています。

研究室の詳細についてはホームページ (<http://www.nak.mech.tut.ac.jp/>) にて公開していますので、お時間のあるときに一度目を通してみてください。皆様ご多忙とは存じますが豊橋へ来られる機会がありましたら、ぜひ気軽に研究室にお立ち寄りください。研究室一同心よりお待ちしております。

最後になりましたが、卒業生・修了生の皆様方のご健康、益々のご活躍を祈念すると共に、今後とも混相流工学研究室をご支援下さいますようお願い申し上げます。



## 高速力学・光計測研究

機械システム工学専攻 1年 小島 修司

高速力学・光計測の研究室は鈴木新一助教授の指導の下、現在、修士4人、学部4人の8名で構成されています。近況報告としまして修士2年の長谷、山口は就職が決まりました。また、山口は修士1年の吉武とともに水中衝撃波の研究を行っています。修士1年の小島は群知能シミュレーションの研究を投稿論文として執筆中です。学部生の小林、瀧、成田、溝口は全員大学院への進学に向け勉強に追われております。また、鈴木先生はinternational journalに投稿するための論文を執筆中です。

ここで本研究室の研究内容を簡単に説明します。一

つ目は高速破壊現象です。この研究はき裂分岐の力学機構を明らかにすることを目的にホログラフィ顕微鏡撮影を行っています。二つ目のレーザー誘起衝撃波は人体内の結石を衝撃波で破壊するという医療への応用を目的としています。三つ目の群知能シミュレーションは知能の創発を明らかにする基礎的な研究を行っています。まだ学部生の研究テーマは決まっていませんがこれらテーマのいずれかに従事することになります。

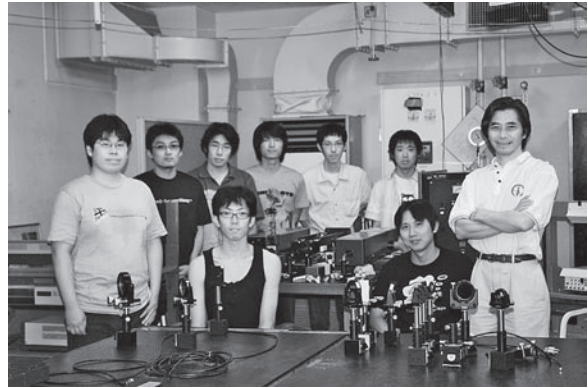
当研究室の行事としまして毎年、秋に開かれる子供のための科学展に参加しております。私たちは光に関係する簡単で見た目に分かりやすい実験を行います。

そろそろ時期が近づいてきましたのでどのように展示するかなどを考えるつもりです。今年3月には企業からメガネのフレームについての性能を比較する研究を委託されたことがありました。3月は現在の学部生は未配属のため人員も今の半分でしたので修士が一丸となって研究を行いました。大変苦勞しましたがその分、企業には良い報告が出来ました。また、ホログラフィハンドブックのための参考資料を作る作業もありました。最近の出来事としましてはサイエンスパートナーシッププログラム (SPP) があり、マッハ・ツェンダー干渉計の実験を高校生に公開しました。

研究室の近況、研究成果の詳しい情報は研究室のHP (<http://dynamic.mech.tut.ac.jp>) に記載されております。

すのでよろしければご覧下さい。

以上、当研究室の紹介であります。社会でご活躍の先輩方へ、お体には気をつけてください。



## トライボロジ講座

機械システム工学専攻 1年 八尾 祐介

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様がそれぞれの職場の最前線で大いにご活躍なされていることと存じます。

現在、本研究室は上村正雄教授と竹市嘉紀講師の下、修士11名、学部8名の計19名という大人数で構成されており、日々研究に取り組んでおります。

研究内容としましては (1) レーザー援用溶射被膜のトライボロジー、(2) 軟質金属潤滑薄膜のトライボロジー (3) 高分子複合材料のトライボロジー、(4) 高温軸受材料のトライボロジー、(5) ボールジョイントのトライボロジー (6) DLC & 人工関節のトライボロジーの6つのテーマを中心に研究を行っております。

(1) では新しいトライボロジー材料開発研究の一環として銅モリブデンの合金溶射被膜のトライボロジーについて、(2) では銅中間層を持つスズ薄膜への加熱環境および加熱条件が、摩擦挙動や寿命特性へ与える影響について、(3) ではPTFE (四フッ化エチレン樹脂) の低摩擦特性を活かしつつ、耐摩耗性を向上させる取り組みを、(4) では潤滑油や固体潤滑材料で潤滑することができない高温雰囲気 (500 ~ 800°C) での摺動材料を開発、(5) ではボールジョイントの性能向上を目的として、ポリアセタールと金属球間の摩擦摩耗特性について調査し、(6) ではポリエチレン表面とSUS表面にDLCコーティングを施すことによりトライ

ボロジー特性の改善を図れないか、それぞれの分野で新たな可能性を目指して、進歩する技術に対応するべく研究に励んでいます。詳細につきましては本研究室HP (<http://tribo.mech.tut.ac.jp/>) に掲載しておりますので併せてご覧下さい。

また、研究室の行事では新入生歓迎会や忘年会、就職祝賀パーティー等、研究室での懇親を深め、楽しい研究生活を送っています。

卒業生・修了生の皆様におかれましては豊橋にお越しの際は、お気軽に本研究室にお立ち寄り下さい。皆様の在学中、就職に関するアドバイス等頂けましたら光栄です。研究室一同、心よりお待ちしております。

最後になりましたが、諸先輩方の更なるご躍進、ご発展を心よりお祈り申し上げます。





# 第二工学系

## 豊友会

—for you—

### (生産システム工学系同窓会会報)

#### 系長あいさつ

生産システム工学系 系長 清水 良明

同窓生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場や立場でご活躍のことと存じます。

さて、私こと本年4月より新系長として心高ぶる毎日を過ごしております。はじめての皆様へのご挨拶に、まず前報以来の教員の異動から話を切り出させていただきます。昨年11月にはシステム創製研究室に林教務職員を迎えました。昨年度末には医療福祉材料研究室の赤堀助手が東北大学金属材料研究所の新家先生の下へ転出されました。一方4月からは本系の博士課程を修了した山田君と野田君がそれぞれ接合加工研究室とシステム制御研究室の助手となりました。また、喜ばしいことに医療福祉材料研究室の戸田先生が教授に、システム制御研究室の三好先生が助教授に昇任されました。さらに9月には現在、本系の研究員の小林正和さんが医療福祉材料研究室の講師になられます。このように人事の動きは引続き活発であり、生産システム工学系の諸般の活動の高さの証であるといえます。

さらに動きといえば、本年は学内、系内で様々な行事や出来事が予定されています。系としては、前報で少し詳しく紹介されたJABEEの中間審査を今秋に受けます。もっか今後3年間の継続認定を目指して教員全員で熱心に取組んでいるところです。皆様には次報で、



その首尾について良いご報告ができるようにと願っております。一方大学では30周年を迎え、今秋の記念式典をはじめとする様々な事業への取組みを開始しております。その折、皆様にお会いできることを楽しみにしておりますが、本頁をお借りして長期的な皆様のサポートを切にお願いする次第です。サポートと言え、本稿を書いている昨今残念ながら、サッカーワールドカップではあまりアジア的とはいえないオーストラリアを除いてアジア勢は全て予選リーグで姿を消してしまいました。伝統のある欧南米チームとの力の差は歴然としていましたが、サポーターに力付けられて次につながる戦いをしたようにも思えます。

本学は単科大学であることに加えて他の旧国立大学の中では歴史も浅いため、法人化のうねりの中で苦勞を重ねながら今後のゆくえを探っています。「確かな礎から未来へ」これが30周年の掛け声です。確かな礎を作った同窓生の皆様のサポートを頼りに今後の10年、20年に向けて新たなスタートを切りたい、こんな思いを全学の構成員が抱いています。伝統ある母校に育つよう、加えて本系がものづくりの中心の学問領域として常にトップランナーであり続けられるよう是非暖かい、また一面では厳しい励ましをかけて下さるようお願いいたします。頑張れ技科大！頑張れ技科大！頑張れ技科大！と…。

#### 学内近況報告

塑性加工研究室 牧 清二郎

卒業生、修了生の皆様、お元気ですか。ご健勝にて各職場においてご活躍のことと思います。大学の方は、系長の清水先生を中心に、教職員一同、教育と研究に励んでおります。系としては、入学、就職状況とも、比較的良好です。これらは、皆



様方の各方面でのご活躍があつてのことと思います。2系では一昨年度（平成16年度）、本学では真っ先に、JABEE（日本技術者教育認定機構）の審査を受け、2年間の認定をいただきましたが、今年度は中間審査が9月に予定されており、その対応に少しあわただしくしています。このJABEEについては恒常的に認定が得られるよう、教職員一同、今後とも頑張っていく所存で

す。これに関連して、皆様にアンケート等をお願いするようなことがあるかと思いますが、その折には、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。大学の近況としては、すでに同窓会等を通じてご存知かと思いますが、今年、本学は30周年を迎え、「確かな礎から未来へ！」をスローガンに、各種の記念事業が企画されており、10月には記念式典が挙行されます。

さて、この1年間の教職員の異動などについて、簡単にご報告いたします。教員の移動では、平成17年10月1日付けで、医療・福祉材料工学研究室を担当していました新家光雄教授が東北大学金属材料研究所に、精密工学研究室の水上良明助手が独立行政法人医薬品医療機器総合機構に、それぞれ転出され、今村孝助手が計測システム研究室に着任されました。そして、11月1日付けで、システム創製研究室の柳在圭助手が金沢大学経済学部へ転出され、入れ替わり、林一雅教務職員がシステム創製研究室に着任されました。そして平成18年に入り、4月1日付けで医療・福祉材料工学研究室の赤堀俊和助手が東北大学金属材料研究所へ転出されました。同じく4月1日付けで、戸田裕之助教授が教授に昇進され医療・福祉材料工学研究室を担当されることになり、システム制御研究室の三好孝典講師が助教授に昇進されました。また、野田善之助手がシステム制御研究室、山田基宏助手が接合加工研究室にそれぞれ着任され、系事務室（総務部総務

課学系係）も、大宮明代さんから小坂和子さんにかわりました。2系の近況につきましては、ホームページ (<http://www.pse.tut.ac.jp/>) で随時報告しておりますので、ご覧下さい。

なお、近くにお越しの際は、大学にもお立ち寄りいただき、恩師の先生に元気な顔でも見せていただき、近況等をお話し下さいますようお願い申し上げます。末筆ながら、皆様のご健康と益々のご発展をお祈り申し上げます。

#### [材料工学講座]

教 授：川上正博、梅本実、戸田裕之  
助教授・講師：竹中俊英、土谷浩一、横山誠二  
助 手：戸高義一

#### [生産計画学講座]

教 授：清水良明（系長）、寺嶋一彦（学長補佐）、  
章忠（系長補佐）  
助 教 授：三宅哲夫、Batres-Prieto Rafael、三好孝典  
助手・教務職員：今村孝、野田善之、林一雅

#### [加工学講座]

教 授：堀内宰、森謙一郎、福本昌宏（未来ビークルリサーチセンター長）  
助 教 授：牧清二郎、安井利明（未来ビークルリサーチセンター）、柴田隆行  
助手・技官：安部洋平（研究基盤センター）、山田基宏、小楠和彦、椿正己

（平成18年8月現在）

## 着任のご挨拶

生産システム工学系 助手 今 村 孝

平成17年10月1日付で生産システム工学系の助手として着任いたしました今村孝です。

私は、仙台電波高専専攻科を修了の後、本学生産システム工学専攻へ編入し、平成15年に博士後期課程を修了いたしました。その後、フランス・パリ13大学客員研究員、本学産学官連携研究員を経て、現職に至っております。この間、機構設計学・制御工学・画像処理・遠隔制御



等、いわゆるロボット工学の各周辺分野において研究を行って参りました。現在は、これらの経験を活かし、自動車のドライバ認知モデルの構築と予防安全対策の研究、企業との共同研究、ロボット創造教育の各分野における研究・教育活動に取り組んでおります。

まだまだ若輩のため、本学の先生方、学生の皆さんにご助力いただく日々が続いておりますが、同窓生の皆様も含め、多くの皆様のインターフェイスとなるよう研鑽を積んでいく所存です。今後ともよろしくお願い致します。

## 着任のご挨拶

生産システム工学系 助手 野 田 善 之

4月1日付で生産システム工学系の助手として着任しました野田善之です。出身は、埼玉県深谷市です。栃木県にある小山高専機械工学科を卒業後、日産ディーゼルに6年間勤務し、その後、小山高専専攻科電子システム専攻、本学修士課程生産システム工学専攻、博士後期課程電子情報工学専攻を経て、今春、システム制御研究室の助手となりました。小山高専専攻科では、空調システムの制御と高速搬送物の質量計測について研究し、



本学修士課程、博士課程では、液体搬送システムの液面制振・高速搬送制御と鋳造産業における自動注湯システムの流量制御について研究してきました。現在は、今まで行ってきた研究を継続しつつ、要素研究を統合したインテリジェント自動注湯システムの開発を行っています。また、液面制振制御の概念をクレーンなどの他の対象に適用し、さらに新しい制振制御アルゴリズムの開発に取り組んでいます。

まだまだ未熟者ですが、研究・教育を通じて、少しでも社会に貢献できればと考えています。卒業生・修了生の皆様、今後ともよろしくお願い致します。

## 着任のご挨拶

生産システム工学系 助手 山田 基宏

4月1日付で生産システム工学系の助手として着任しました山田基宏です。今春、本学大学院博士後期課程を修了し、接合加工研究室の助手となりました。私は鈴鹿工業高等専門学校専攻科を修了後、本学生産システム工学専攻に入学し、修士課程および博士課程と一貫して熱プラズマの反応性を利用した溶射法による窒化物セラ



ミックスキ膜作製に関する研究を行ってきました。現在はこれまでの溶射に関する研究の継続に加え、原料粉末を熔融させず、衝突エネルギーにより堆積させることにより、高速成膜を可能とするコールドスプレー法やエアロゾルデポジション法という新規成膜プロセスに関する研究にも取り組んでおります。

不慣れな部分も多く、未熟者ではございますが、卒業生・修了生の皆様、どうぞよろしくお願ひ致します。

## 着任のご挨拶

生産システム工学系 教務職員 林 一雅

平成17年11月1日付で、生産システム工学系の教務職員として採用されました林一雅です。平成16年に東京都立科学技術大学大学院工学研究科インテリジェントシステム専攻博士前期課程を修了後、博士後期課程に進学し、在学中に本学生産システム工学系のシステム創製研究室へ着任いたしました。



専門分野は設計工学、協調工学、遠隔教育です。こ

れまで、工学系の遠隔教育システムの開発と設計教育に関わるプロジェクトに参加しておりました。現在は、環境と情報をキーワードにしたライフサイクルエンジニアリングの研究と多目的最適化の研究を進めております。不慣れな部分もありますが、研究・教育と精進して、本学の発展に微力ながら貢献していきたいと思っております。

最後に同窓生の皆様のお役に立てることがありましたら、ご協力させていただきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。

## 研究室だより

### システム制御研究室の近況報告

生産計画学講座 博士2年 増井 陽二

同窓生の皆様、いかがお過ごしでしょうか？

現在研究室は、寺嶋教授を中心として、本学修了生でもある三好助教授と野田助手、1名の秘書のスタッフと博士課程3名、修士課程18名、学部4年生6名の計31名（うち留学生4名）で構成されています。

研究テーマとしては、“ロボティクスとオートメーション”を軸に、「人に優しい制振制御技術の開発」と「機械と人間の共生・共存を考慮したインテリジェント制御システムの構築」を目指し、研究に取り組んでいます。

また、最近では産学連携プロジェクトにも参加しており、学術的な研究だけでなく、産業界で即戦力となる実用的な研究についても精力的に進めています。詳しくは研究室のホームページをご覧ください。

<http://www.syscon.pse.tut.ac.jp>

本年度は、第8回システム制御（旧工程制御）研究室同窓会が平成18年9月30日にホテル日航豊橋にて開催

されます。原稿執筆現在において多くの同窓生の方々の出席の連絡を受けており、非常に楽しみにしております。今回参加していただく皆様にはお礼を申し上げますとともに、3年後再びお会いできることを楽しみにしております。また、今回仕事などの都合で参加できなかった皆様も、3年後の次回は是非ご参加下さい。



## 製錬工学研究室の近況報告

材料工学講座 修士1年 佐藤 綾 祐

卒業生・修了生の皆様こんにちは。

製錬工学研究室は現在、川上教授、竹中助教授、横山講師のスタッフと博士課程1名、修士課程17名、学部学生7名の総勢28名で研究活動を行っています。

本研究室は、炭素グループ、熔融塩グループ、メカノケミカルグループの3グループで構成されています。特に今年度は、川上先生が定年を迎え御退官されるため、研究室全メンバー丸となって研究に取り組んでいます。研究室の近状、研究内容などの詳しい情報は、下記の研究室の研究室ホームページに記載されていますので、御覧ください。http://seiren.pse.tut.ac.jp/

研究室行事としては、新歓コンパ、忘年会、追い出しコンパなどを行っています。特に6月に開催されている2系全体でのサッカー大会では、常勝製錬として毎年優勝を目指しています。

最後になりましたが、卒業生・修了生の皆様のご活躍、

ご健康を祈念すると共に、今後も製錬工学研究室を暖かくご支援下さるようお願い申し上げます。



## 塑性加工研究室の近況報告

加工工学講座 助手 安部 洋平

卒業生の皆様いかがお過ごしでしょうか？

現在塑性加工研究室は、森教授、牧助教授、安部助手の3名のスタッフで研究教育にあたっています。研究室では、社会人を含め博士課程4名、修士課程17名、学部生7名の計28名の学生で研究活動を行っています。この中にはマレーシア、ウズベキスタン、サウジアラビアの留学生が含まれ、日常的に英語が飛び交い国際色豊かになっています。

現在取り組んでいる主な研究テーマは、

- ・直接通電加熱による高張力鋼板のプレス成形
- ・高張力鋼板とアルミニウム板接合のためのセルフピアシングドリベット
- ・高張力鋼板のフランジ成形
- ・アルミニウム合金鋳物の熱間スピニング
- ・ hidroフォーミングによる中空部品の成形
- ・自動車用スチールホイールのプレス成形

です。なお、詳細や研究室の様子については随時ホームページ (http://plast.pse.tut.ac.jp/) でご覧いただ

けます。研究活動以外にも、新歓コンパ、夏のバーベキュー、忘年会、追い出しコンパなどを随時行っています。写真は7月に寺沢海岸でのバーベキューにて撮影したものです。

最後になりましたが、卒業生の皆様のご活躍を祈念すると共に、今後も研究室を暖かくご支援くださるよう心からお願い申し上げます。



## 豊友会事務局から

### 平成 17 年度収支報告

#### 収支の部

前年度繰越金	3,665,778
会費(各系分配金)	520,000
普通預金利息	32
収支合計	4,185,810

#### 支出の部

会報等発送作業代	58,958
会報等発送代	145,605
名簿更新作業代	4,000
次年度繰越金	3,977,247
支出合計	4,185,810

### 豊友会事務局

〒441-8580 愛知県豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1  
豊橋技術科学大学 生産システム工学系内  
FAX: 0532-44-6690  
E-mail: admin-2@tut-ob.org  
URL: http://www.tut-ob.org/

代表	三好 孝典
会計担当	戸高 義一
会報担当	山田 基宏
名簿担当	安部 洋平, 今村 孝
ホームページ担当	野田 善之

# 第三・第四工学系

## 電気・電子工学系／情報工学系より

### 電気・電子工学系／情報工学系の近況報告

#### 電気・電子工学系

乾 義 尚

修了生、卒業生の皆様方におかれましては、ますますお元気でご活躍のこととお慶び申し上げます。本学は今年の10月で開学30周年を迎えます。本学は1976年10月に設立された比較的小規模の工科系単科大学ですが、設立後30年間順調に発展し続けることができましたのも、ひとえに修了生、卒業生の皆様のご支援のたまものであると、深く感謝しております。今後、10月6日（金）に開催される予定の記念式典をはじめとして様々な行事が行われますほか、産学官連携や地域連携、学生支援を目的とした様々な記念事業が行われることになっておりますので、皆様方の暖かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

電気・電子工学系の関係では、昨年度申請をしておりましたJABEE（日本技術者教育認定機構）の審査に無事合格し、電気・電子工学課程が電気・電子・情報通信およびその関連分野でJABEEの認定プログラムになりました。なお、認定は5年間有効です。また、21世紀COEは、今年度が最終年度で、最終成果のまとめに取りかかると同時に、次期COE申請に向けての検討を開始しております。

さて、電気・電子工学系では、この1年間に数名の先生方の異動がありました。まず、1月1日付で申光鎬先生が基礎電気・電子大講座助教授に、3月1日付でLim Pang Boey先生が基礎電気・電子大講座特任助教授に、川島貴弘先生が研究基盤センター（電子デバイス大講座）助手にそれぞれ就任されました。一方、4月1日付で、電気システム大講座教授の榊原建樹先生が岐阜工業高等専門学校校長に、未来ピークルリサーチセンター（電気システム大講座）助教授の穂積直裕先生が愛知工業大学教授に、基礎電気・電子大講座助手の西村一寛先生が鈴鹿工業高等専門学校講師にそれぞれご昇任・栄転されました。

今年も、教職員一同、従来にもまして教育・研究活動に精進していきたいと考えておりますので、何卒よろしくご支援のほどお願い申し上げます。

#### 情報工学系

福 村 直 博

卒業生、修了生のみなさん、お元気でしょうか。それぞれ、各方面にてご活躍のことと思います。今年のご存知の通り技科大開学30周年であります。この区切りの年を迎え、情報工学系も教育・研究活動にますます積極的に取り組んでおります。情報工学課程では昨年10月にJABEEの実地審査を受けました。その結果、やや難航しましたが認定を受けることが出来ました。卒業生、修了生の皆様にはアンケートや実施審査での面談などご協力を頂き、改めて御礼申し上げます。しかし、いくつかの教育課程の改善点を指摘されており、それらを参考に現在もさらなる改善を進めております。

また、今年も先生方の異動がございました。まず昨年11月には情報システム大講座の武田善行先生が東京大学へ、今年の3月には計算機大講座の石井利昌先生が小樽商科大学、津邑公暁先生が名古屋工業大学へ転出されました。さらに、6月には計算機大講座の中島浩教授が京都大学へ、情報処理大講座の宇野洋二教授が名古屋大学へ転出されました。一方、今年の4月には情報処理大講座の助手として向井智彦先生が加わりました。また、文部科学省の海外先進教育研究実践支援プログラムによりアメリカのアイオワ州立大学に1年間滞在されていた、情報システム大講座の和田和千先生が復帰され、さらに本年4月に助教授に昇任されました。

今後も学内再編など大学の環境は様々に変化して行く事が予想されますが、教職員一同で新たな技科大、情報工学系のために教育・研究活動を発展させてゆく所存でございますので、よろしくご支援のほどお願いいたします。また、近くへお越しの際には是非大学までお立ち寄り下さいますよう、お願い申し上げます。

## 電気・電子工学系／情報工学系教職員一覧

### ◆ 電気・電子工学系

〈基礎電気・電子大講座〉

教授：太田昭男，福田光雄，井上光輝  
 助教授：服部和雄，中村雄一，申光鎬  
 内田裕久<sup>\*1</sup>，Lim Pang Boey

助手：稲田亮史，内海淳志

〈電気システム大講座〉

教授：恩田和夫，長尾雅行  
 助教授：乾 義尚，滝川浩史  
 助手：村上義信，荒木拓人

教務職員：桶真一郎

技 官：日比美彦

〈電子デバイス大講座〉

教授：米津宏雄，石田 誠，若原昭浩  
 助教授：朴 康司，澤田和明，原田八十雄  
 高尾英邦<sup>\*2</sup>

助手：岡田 浩，古川雄三，川島貴弘<sup>\*1</sup>

技 官：足木光昭

### ◆ 情報工学系

〈計算機大講座〉

教授：中川聖一，藤戸敏弘  
 助教授：秋葉友良，廣津登志夫<sup>\*3</sup>

講 師：北岡教英，小宮常康

助手：岡本吉央

技 官：片岡嘉孝

〈情報処理大講座〉

教授：青野雅樹，栗山 繁

助教授：中内茂樹，福村直博

講 師：菅谷保之

助手：福田浩士，関 洋平，向井智彦

〈情報システム大講座〉

教授：田所嘉昭，横山光雄，梅村恭司

助教授：後藤信夫，上原秀幸，和田和千

助手：夏井雅典

技 官：宮脇治雄

### ◆ 事 務 官

三輪恵子，松田久乃，丸山利美，浅井なをみ

※1 研究基盤センター

※2 インテリジェントセンシングシステムリサーチセンター

※3 情報メディアセンター

### ◆ 同窓会役員

〈電気・電子工学系〉

稲田亮史，村上義信，内海淳志，桶真一郎

E-mail: admin-3@tut-ob.org

〈情報工学系〉

福田浩士，向井智彦，野口健太郎（沖縄高専）

E-mail: admin-4@tut-ob.org

## 平成 17 年度

### 電気・電子工学系／情報工学系同窓会会計報告

	平成17年度決算
<b>■収入の部</b>	
平成 16 年度繰越金	6,777,714
平成 16 年度終身会費入金分	1,080,000
預金利息	54
収入合計	7,857,768
<b>■支出の部</b>	
平成 17 年度会報発送費	218,430
平成 17 年度会報発送作業費	147,640
平成 17 年度国際学会発表奨励金	501,890
小計	867,960
次年度繰越金	6,989,808
支出合計	7,857,768

## ～退職教員より～

元電気・電子工学系 教授 榊原 建樹

この3月に豊橋技術科学大学を退職し、4月から岐阜高等専門学校第6代校長に就任しました。これまでの教育・研究を主とした仕事から一転した生活ぶりを日記風に記す。

4月3日(月)：午前中、高専機構本部で辞令交付式。今年度の新校長は12名。内2名は行政職から、2名は高専の教務主事から。あとは、東北大、東工大、富山大、阪大、京大、九大の工学部長経験者で、平教授からは私ももう一人。多少、気後れはするが、岐阜高専の学生と高専益を守るぞという対抗意識が頭をもたげた。午後、岐阜高専事務部長と共に文部科学省の関連部署に就任挨拶回り。文部科学省の玄関に一抱えほどの「さざれ石(国家に歌われている)」が2個、飾ってあるのを発見。産地は岐阜県揖斐郡春日村(岐阜高専の隣の町)とのこと。本校の玄関にも飾ることにした。文科省は現在、三菱重工丸の内ビルに仮住まいしており、いたるところ書類の山。書類を避けるようにして、若い課長さん達に新任挨拶。文科省内部の辞令交付挨拶と重なり、課長室前はかなり混雑。実質は名詞を渡すだけ。各課長は約50mm厚の名詞の束を握っていた。

4月4日(火)：午前、主管会議(校長、教務主事、研究主事、学生主事、寮務主事、事務部長、各課長)。就任の挨拶。各自自己紹介。例により、出身地と趣味を聞く。議事よりもこちらに要した時間が長かった。座が和んだ。午後、運営会議(主管会議メンバー+各学科長+各委員会委員長)。教務主事が司会し、全員の出身地と趣味を聞いたのには驚いた。

4月5日(水)：午前3時40分、学生寮で火事。2日前に来日したマレーシアからの留学生が電気ストーブを点けたままベッドで寝てしまい、掛け布団がずれてストーブに掛かって燃えたのが原因。雨の中を大垣市から高専まで車で駆けつけたときには、消防車2台が引き上げかけていた。現場検証。炎が天井まで燃え上がった跡があった。留学生は左の手のひらに軽い火傷ですんだのは幸い。このような火事は昭和38年度の高専開校以来とのこと。新校長は火事もってきたとの噂が立ったとか。

4月6日(木)：入学式。この日のために新調したモーニングを抱えタクシーで高専へ。校長室で着替え、式辞。新入生は15歳。難しいことを言ってしまったかの反省あり。その後、教育後援会総会で挨拶。入寮式で挨拶。専攻科入学式で式辞。挨拶・式辞で一日が終わった。

制限字数800字を超えたので、続きは次回に。

元電気・電子工学系 助教授 穂積 直裕

電力中央研究所での勤務を経て1999年4月に豊橋技術科学大学に着任しました。以来7年の在任の後、本年4月より豊田市の愛知工業大学に勤務しております。長尾雅行先生、村本裕二先生(現在名城大)、村上義信先生をはじめ、技科大の先生方と職員の皆様には、活躍と成長の場を与えていただき感謝に耐えません。また学生諸氏とは、大学教員ならではの楽しい時間をもにさせていただきました。技科大とは客員教授としての仕事や共同研究などで交流が続きます。今後も技科大ファミリーの一員として、お付き合いをお願いいたします。移籍を機に教員生活を中間総括すると、「結構良かったぞ」ということになります。まずはその要因分析。(1)教育の楽しみ 人の成長の傾きは一定ではなく、quantum jumpがあることはよく云われます。身近に居る学生さんが「びよんと」成長する瞬間に立ち会い、多少とも手助けできることは教員職の最大の魅力です。今後も若い人が楽しみながら、人間として、技術者として成長できる環境づくりを心がけます。在任中に編み出したいくつかの実演手法などは今後も大いに活用します。(2)研究テーマの自由度 「電力技術」という限られた応用範囲の殻を破り医療を始めとする異分野で成果を挙げられたのは、いくつかの偶然の出会いのお蔭様ではありますが、軽快に分野間ホッピングができたのは大学の懐の深さゆえと感じております。(3)産学官連携 着任した頃から産学官連携の機運が急激に高まったようです。サイエンス・クリエイト殿や、豊橋に拠点をもつ本多電子殿、日東電工殿、神鋼電機殿をはじめとする企業と進めた研究は、充実した経験となりました。職場は変わってもこれらの皆様とは今後も是非お付き合いいただきたいものであります。(4)国際交流 工学教育国際センターのプロジェクトなどを通じ、国際交流は私の大好きな仕事となりました。留学生の皆さんと語り合ったことは技科大の良い思い出になっております。今度の学校は中国との交流が盛んです。是非私のネットワークも活かしたいものです。

さて、「退職教員」とはいえ、もう一旗二旗揚げようとしている私は、技科大での思い出に浸ってばかりはおられません。当面は、少子化に直面した私学の厳しい環境の中で技科大在任中を凌ぐ教育・研究成果を挙げるべく腐心する日々が続くこととなります。大学を問わず可愛い教え子たちには、社会のサバンナの中で、いずれも逞しく生き抜いてもらいたいものであります。

## 3・4系同窓会国際学会発表奨励金

平成17年度より、系内同窓会活動の活性化および大学への貢献事業として、国際学会での研究成果発表を行う3・4系学生への奨励金助成を行なっております。平成17年度後期については以下の4名(3系・4系各2名)に助成を行なうことに決定致しましたのでご報告させていただきます。(平成18年度前期は現在(平成18年7月末)公募中。採択決定しだい同窓会HPにて報告予定です。)

### 平成17年度後期 3・4系同窓会国際学会奨励金採択者一覧

系	学年	氏名	渡航国	国際学会名称
3	博士1年	Rudi Kurniant	インドネシア	International Conference on Properties and Applications of Dielectric Materials
3	博士2年	Eka Putra Walidi	インドネシア	International Conference on Properties and Applications of Dielectric Materials
4	修士2年	鈴木 寛人	ギリシャ	IEEE International Symposium on Circuits and System 2006
4	博士2年	中田 尚	米国	39th Annual Simulation Symposium

また、採択された学生による海外出張報告は、同窓会報ならびに本学同窓会HPにて順次紹介していく予定です。今回は第一報として、平成17年度前期採択学生の方々に国際会議参加報告を紹介したいと思います。

## 国際会議参加報告

### 電気・電子工学専攻 修士2年 岩崎 康浩

私は2005年9月にハワイ島のヒロで行なわれた、第5回プラズマ応用科学国際シンポジウム (ISAPS '05) に参加しました。ISAPS '05はプラズマ応用科学の分野について5日間にわたって70程度の発表が口頭およびポスターで行なわれ、10を超える国からの参加がありました。

私は「T字状フィルタードアーク蒸着におけるDLC膜成膜速度のダクトバイアスによる影響」と題し、ポスターセッションで発表を行い、海外の研究者の方々からも論文発表の有無を聞かれるなど興味を持っていただくことができました。また、会議全体を通して今後の研究に生かすことのできる有意義な経験となりました。さらに、会議中に開催されたイベントに参加し、ハワイ島の自然を楽しむこともできました。

最後に、初めての国際経験となった海外渡航の実現に3・4系同窓会国際学会発表奨励金のご援助を頂いたことに深い感謝の意を表します。

### 電子・情報工学専攻 平成18年度修了生 大濱 吉紘

この度は、国際学会発表奨励金に採択して頂き、ありがとうございました。私は2005年9月11～15日にポーランド共和国の首都ワルシャワで開催された“International Conference on Artificial Neural Networks”において、生体の運動制御学習の計算モデルについて研究発表を行ってまいりました。香港・ロンドン経由の移動(片道25時間!!)は堪えましたが、ヨーロッパ各地の多くの研究者と有意義な議論ができ、また自身の英語力が把握できたことは大きな収穫です。トラムやバスを利用して、ワルシャワ市街を1日間だけ観光し、カメラ片手に旧共産圏の影響が色濃く残る街並みを歩き回ってきました。経済的にまさに発展段階にある国の首都ということもあり、新市街は活気に溢れていましたが、一方で旧市街周辺やワジェンキ公園などは静かな雰囲気も保たれており綺麗に整備されていて、いくつか良い写真を撮ることができました。都合がつかず、ワルシャワからは遠く離れたアウシュビッツを訪ねられなかったことが、個人的には心残りです。最後に、ご支援頂きました同窓会の皆様に、お礼申し上げます。

### 電子・情報工学専攻 平成18年度修了生 向井 智彦

私は今回、2005年10月17日から19日に中国の香港にて開催された、Computer Animation and Social Agents 2005 (CASA2005) に参加しました。会議全体では約70件の発表があり、約120名の参加がありました。私は「Psychological Model for Animating Crowded Pedestrians」というタイトルで、大規模な集団歩行のシミュレーション技法に関する報告を行いました。発表内容に関して興味を持っていただいた数名の研究者と議論する機会にも恵まれ、今後の進展に関する貴重な助言も得られました。こうした有意義な機会を与えていただいた、今回の同窓会からのご支援にお礼申し上げます。



# 研究室だより

## 高電界電気現象研究室

電気・電子工学専攻 修士1年

矢倉 孝治

卒業生、修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様におかれましては、それぞれの職場で日々ご健勝のことと存じます。

それでは、本研究室の近況を報告します。現在の研究室の構成は、長尾雅行教授、村上義信助手を中心として博士2名、修士17名、学部7名、秘書1名の計28名です。昨年度まで本校で活躍されていた穂積直裕助教授が、本年度より愛知工業大学へ教授として異動されたため、学部生は減少しましたが、研究室一丸となって日々研究に勤しんでおります。

研究内容は、主に高分子材料の高電界電気物性と電気絶縁性能の向上に関する研究、電気絶縁材料の絶縁劣化診断に関する研究、極限環境領域における電気絶縁構成に関する研究、生体組織用超音波顕微鏡の開発を行っています。

研究室行事として、毎年恒例の夏ゼミ旅行があります。今年は浜松へ行き、勉強会として「誘電・絶縁材料の分析法」をテーマに発表会を行いました。その後、ソフトボールを行い、夜の宴会で親睦を深めました。本研究室では一人一芸を目標にしており、研究だけで

なく宴会芸も日々精進しています。

本研究室の情報については長尾研究室のwebページ(<http://boss.eee.tut.ac.jp>)にて公開していますので、お時間のある時に一度目を通してみて下さい。皆様ご多忙とは存じますが、豊橋へ来られる機会がありましたらお気軽に研究室へお立ち寄り下さい。長尾研究室一同心よりお待ちしております。その際、大学在学中や就職活動、実際の現場での貴重な体験などの話を聞く事ができれば幸いです。最後になりましたが、先輩方の今後ますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。



## 集積回路・センサシステム研究室

電気・電子工学専攻 修士2年

市川 武彦

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場でおおいにご活躍されていることと存じます。

現在、本研究室は石田誠教授、澤田和明助教授、原田八十雄特任助教授、高尾英邦助教授、川島貴弘助手、赤

井大輔助手 (VBL)、足木光昭技術専門職員のスタッフ7名を中心としてポスドク3名、博士12名、修士22名、学部12名、秘書2名の計58名という大きな研究室となり、その大きさに負けないくらいパワフルに日々研究に励んでいます。メンバーの中には韓国をはじめ中国、

バングラディッシュ、インドの留学生・ポスドクが在籍し国際色豊かな研究室で、異文化に触れ合う機会も多くあります。また、様々な企業との共同研究も積極的に受け入れ、企業と研究室それぞれの知識や技術を共有することで研究の可能性を広げることができています。

近年、特に力を入れている研究は、文部科学省「21世紀COEプログラム」に採択された“インテリジェントヒューマンセンシング”です。これは、人間が発する多種多様な情報を同時にセンシングし、必要な情報だけを中継機器へ伝送するための、人に優しい超小型・軽量でウェアラブルなマイクロセンサチップを実現する、という研究です。本年度はこのプログラムの最終年度ということで、研究成果をまとめるべく全力で研究を進めています。また、科学技術振興機構（JST）の「戦略的創造研究推進事業-CREST」では“社会の安全・安心に貢献するユビキタス集積化マイクロセンサの開発”という研究課題が採択され、課題実現のために先生、学生共に日夜、ミーティングや実験を重ね努力しています。このような大きなプロジェクトに採択されたことは、諸先輩方が学生時代に築き上げてくださった研究成果が基盤となり成し得た結果だと考え、大変感謝しております。研究室の研究内容や研究成果等はホー

ムページ (<http://www.dev.eee.tut.ac.jp/ishidalab/>) で公開しておりますので是非ご覧ください。

本研究室には研究だけでなく、1年を通して多くの楽しいイベントがあり、お花見、新入生歓迎会、忘年会、新年会、追出しコンパなどでは、60名近い研究室メンバーのパワーで大いに盛り上がります。毎年恒例の研究室最大のイベントである夏旅行は、今年は岐阜県郡上市でキャンプを行い、温泉・観光・バーベキューなどを楽しみ、日々の研究の疲れを癒すと共にこれからの研究の英気を養う素晴らしい旅行となりました。

最後に、豊橋の近くへお起こしの際は是非、大学・研究室へお立ち寄りください。研究室一同、心よりお待ちしております。



## システム応用研究室

情報工学専攻 修士1年

池上 真史

卒業生・修士生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場において大いに活躍されていることと存じます。

現在、本研究室は博士3年が1名、修士2年が6名、修士1年が4名、学部が4名で構成されています。8月に宇野洋二教授が名古屋大学に異動されたため、若干人数が減りましたが、福村直博助教授、福田浩士助手のもと日々研究に勤しんでおります。

本研究室ではヒトの持つ情報処理能力、特に認知、運動とその学習機能について、計算論的神経科学の立

場から解明することを目的としています。現在は、下肢麻痺者の歩行再建システムの研究、ロボットを用いた学習モデルの構築、把持運動における感覚運動統合と視覚運動変換、手話認識システムの構築、運動のばらつきに関する研究、知覚位置誤差に関する研究などが行われています。これらの研究のほとんどは先輩方の研究の上に成り立っていますが、その成果は着実に進んでいます。

研究室行事としては、春には新入生歓迎会、夏には研究室旅行や情報処理大講座内での研究室対抗球技大

会、秋にはB4激励会、冬には忘年会、追いコンなど、数多くのイベントがあり、先生と学生間での親睦を深めています。

現在、研究室のホームページ (<http://www.system.tutics.tut.ac.jp>) では、研究室の紹介やメンバーについての情報を公開しておりますので、お時間のあるときにでも御覧下さい。最後に、豊橋の近くにこられたときには、是非研究室にお立ち寄り下さい。研究室一同、皆様のご来校を心よりお待ちしております。先輩方の今後の更なるご活躍を心よりお祈り申し上げます。



## 情報交換研究室

情報工学専攻 修士2年

金子 英史

卒業生、修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様がそれぞれ職場において大にご活躍しておられること存じます。

現在、情報交換研究室は、横山光雄教授、上原秀幸助教授、宮脇治雄技官の3名のスタッフと、博士3名、修士10名、学部4名、研究生1名の総勢20名で構成されています。大きく分けて「移动通信技術」と「無線ネットワーク」の2つのグループで、日々、研究に取り組んでいます。通信グループでは、符号分割多元接続における干渉除去、通信路のフェージングや位相雑音に対処するためのパイロット信号技術の研究を行っています。無線ネットワークグループでは、アドホックネットワークにおけるMACプロトコルやITSに関する研究、センサネットワークやQoS制御に関する研究などを行っています。それぞれのグループ内でのゼミに加え、研究室全体での活発なディスカッションを通して、精力的に研究を進めております。優れた研究成果を発表するため、日夜研究を行っていきます。研究室メンバーや研究内容、研究成果については、ホームページ (<http://www.comm.ics.tut.ac.jp>) にて公開しておりますので、お時間があればぜひご覧下さい。

今年も様々な研究室イベントを行っています。毎年

恒例の研究室旅行では、今年度は日間賀島に行きました。昼は海水浴、サイクリング等を行い、夜は花火大会を見て、心身ともにリフレッシュしました。

お忙しいと存じますが、豊橋方面へ来られることがございましたら、お気軽に研究室にお立ち寄り下さい。研究室一同、心よりお待ちしております。先輩方の在学中や卒業、修了後の貴重なお話をさせていただければ幸いです。先輩方の今後のさらなるご活躍とご健康をお祈りしております。また今年度で、横山教授が退官し、記念パーティが開催されます。参加を心よりお待ちしておりますとともに、先輩方に会える機会を楽しみにしております。



# 第五工学系

## 物質工学系より

### 系長あいさつ

物質工学系 系長 青木 克之

同窓生の皆様にはお変わりなくご活躍のことと存じます。

大学は国立大学法人化後3年目となり、第1期中期目標・中期計画（6年間）に基づく大学改革の真ただ中にあります。物質工学系では平成17年度の教職員の異動はなく、系の新陳代謝に課題を残しているところではありますが、平成18年度には竹市研究室に新しく助手の着任が予定されています。系内の改革につきましては、ここ数年来、教育内容・教育体制の自己点検を通してその整備を進めているところですが、日本技術者教育認定機構（JABEE）による物質工学課程プログラム（化学および化学関連分野「応用化学コース」）の認定審査を受けることを前回お知らせしました。JABEEは工学系卒業生の国際的に通用する基準に則った「品質保証制度」を確立することを目的として平成11年末に設立された外部評価機関ですが、認定には、学部卒業時に卒業生が具備すべき知識・能力を学習・教育目標として定め、それを確かに達成したことを証明することが必要であり、教員、学生ともにこれまで以上の努力が求められています。認定されますと、認定プログラムの修了生は技術士補の試験が免除され、4年以上の実務経験の後、技術士の試験が受けられます。一昨年皆様にも、物質工学系在学時に受けられた教育・講義・研究、施設・設備等についてその評価をアンケートによりお聞きし、この審査のためにご協力いただきましたが、審査の結果は「認定期間を2年間とし、指摘改善項目について2年後に再審査を行い、これに合格すればさらに3年間を認定する」というものでした。現在、来年再審査を受けるべく指摘された改善項目について再検討を進めております。平成17年度卒業生の皆様には、技術士補試験免除の資格が得られたことをここにお知らせします。現在、大学改革の一環として学内組織の再編が議論されており、物質工学系が今後どのような形で再編されるかは未定ですが、社会の要請として、化学を中心とする分野における先端技術の研究と実践的創造的かつ指導的技術者・研究者の育成はますます求められており、このJABEE「応用化学コース」は存続する予定です。

本学は本年開学30周年を迎え、物質工学系の卒業生・修了生は平成17年3月現在で1080名を数えております。先般皆様には30周年記念事業に寄付金のご協力をお願いしたところでありますが、今後とも、本学およ

び物質工学系の教育・研究に一層のご高配、ご支援をいただきますようお願い申し上げます。最後になりますが、皆様の更なるご活躍とご健勝を心よりお祈り申し上げます。

#### 教職員一覧

教授：青木 克之 伊津野 真一 角田 範義  
逆井 基次 神野 清勝 竹市 力  
松田 厚範  
助教授：岩佐 精二 大串 達夫 西宮 伸幸  
服部 敏明 平田 幸夫 松本 明彦  
吉田 絵里  
講師：水嶋 生智 吉田 祥子  
助手：河内 岳大 齊戸 美弘 佐藤 裕久  
柴富 一孝 原口 直樹 武藤 浩行  
教務職員：大北 博宣 藤澤 郁英  
技術専門職員：太田 初一 齊藤 年秀  
系事務：鈴木 いずみ

平成18年11月現在

### 学内近況報告

物質工学系 大串 達夫

卒業生・修了生の皆様、お元気でご活躍の事と思えます。

大学では2005年12月に学長選挙があり、西永頌先生が再選され現在2期目の任期（2006年4月1日～2008年3月31日）になっております。西永学長は、任期中に学内再編を行いたいとの強い意欲をお持ちで、現在この問題が少しずつですが、着実に進んでおります。再編問題は大学にとって非常に大きな問題ですので、慎重に進めております。現在議論されている案では、新しい工学系の名称の中に「物質工学」はなくなる可能性が高くなっております。物質工学系にとっては大変寂しく厳しい状況です。

前号でもお知らせしましたが、物質工学系では、大学・

系で実施している教育体系・内容が日本技術者教育認定機構 (JABEE) から認定・評価されるよう、数年前からシステムの変更や資料蓄積・作成等の努力をしてきました。認定審査用の資料を2005年7月末までに完成させ、審査はその年の10月中旬に3日間に渡り行われました。審査は、書類審査、実地検査、教員・職員・学生の面接、に及び非常に念入りに行われました。その結果、2005年度末に正式に認定されました。JABEEから認定を受けたと言う事は、本系で実施している教育が、工学教育に求められる国際的基準を満たしていると言う事のお墨付きを得た事を意味しており、教職員一同ホッとした所であります。しかしこの認定を得る為の一連の作業の中で、担当委員をもっと喜ばせた事がありました。審査資料の一部として、卒業生及び卒業生を受け入れた企業が、本学の教育と研究をどのように評価しているか、の具体的資料を添付する必要がありました。本系では、この資料として使うためアンケート調査を行いました。皆さんの元へも調査用紙が届いたのをご記憶にあると思います。戻ってきた回答を集計して、卒業生からも受入企業からも、物質工学系の教育と研究が高い評価を受けている事を知りました。我々担当委員一同は、互いに顔を見合わせニヤリとした事を今思い出します。勿論、完璧な評価だった訳ではありませんので、不十分な点は今後も努力して改善して行かねばなりません。

物質工学系卒業・修了予定者の就職状況は2006年春から急改善した、と言っても良い位求人質と量が変

化しました。この約10年の間、就職活動で苦い・辛い思いをした卒業生・修了生の方も少なからず居たと思います。2005年春の頃少し改善したな、と感じていたのですが、2006年春からは大きな変化を実感しております。研究室のOBから「今年は新人の採用が旨く進んでいない。会社として危機感を持っている。先生の研究室で今就活している学生はいますか？」という問い合わせを複数頂きました。この問い合わせに対しては「残念ながら今の時点では手遅れです」と返さざるを得ない状況でした。つい2年前までの状況からは信じられない程の変わりようです。卒業生・修了生を送り出す側としては嬉しい状況なのですが、良い返事ができなかったOBの方には申し訳ない気持ちで一杯です。

堤先生が2006年3月末日をもって定年退職されました。定年退職されるまでは、物質工学系と本学の工学教育国際協力研究センター (ICCEED) の教授を兼任されておりました。ICCEEDでの仕事で、年のおおよそ半分位は東南アジア特にタイに滞在している事が多かったようです。4月以降もこの仕事を続けておられます。JICAのプロジェクトのチーフアドバイザーとしてバンコクに拠点を置き、工学系の人材育成にあたっておられます。堤先生は、物事を非常に冷静に的確に見る方で、物質工学系の名物先生の一人だったと思います。そのような先生がまた一人いなくなってしまうのは誠に寂しい思いが致します。

今後の皆様の益々のご活躍を心より祈っております。

## 研究室だより

### 逆井・松田研究室

修士2年 村山 陵一

卒業生、修了生の皆様いかがお過ごしでしょうか。現在、逆井・松田研究室では逆井教授、松田助教授、武藤助手、大幸研究員の指導のもと、博士1名、修士10名、学部生5名で構成されております。教員・学生含めすべて男子という恵まれた環境の中で日々研究を続けております。また、春はお花見、夏は海水浴で教員・学生の交流を深めております。

研究内容は、圧子力学を用いてセラミックス材料や薄膜の力学物性評価と解析理論の解析理論の確立に向けた研究、燃料電池の部材となる新規なプロトン伝導体の開発、ゾルゲル法によって作製した薄膜の温水処理や電場による高機能化、ゲルに機械的応力を与えることによる結晶の作製などを行っております。この成果は学会や討論会など多くの場で発表し、様々な賞も受けております。詳しい内容はホームページ (<http://material.tutms.tut.ac.jp/~muto/>) で確認していただけます。興味のある方は是非ご覧ください。

### 服部研究室

修士1年 木出 耕平

卒業生、修了生の皆様いかがお過ごしでしょうか。各分野でご活躍のことと存じます。現在、計測化学研究室は、服部敏明助教授と加藤亮助手の指導のもとで修士4名、学部3名の合計7名で日々各人の研究に励んでおります。学生の人数は他の研究室に比べて少ないですが、仲がよい明るい研究室です。

さて、現在進めている研究テーマを簡単に説明します。修士学生は、キャピラリー電気泳動法による酸溶液中におけるアルミニウムイオンの状態分析、電極活性陽イオン界面活性剤を用いた吸着ボルタメトリー、CCD型イオンセンサーの開発、イオンセンサーによる高分子イオンの定量、学部学生は、電極活性陰イオン界面活性剤を用いた吸着ボルタメトリー、光導波路を用いた潤滑油中の水分測定、両性高分子電解質のキャピラリー電気泳動を行っています。修士学生は、8月の分析化学会中部支部夏季セミナーと9月の分析化学会年会で、学部学生は、11月の中部支部高山フォーラ

ムで、毎年発表することが研究室での修了と卒業の要件になっています。

研究室のイベントとしては、ピペットマン大会、新入生歓迎会、暑気払いコンパ、忘年会、追い出しコンパを行っています。

ご多忙とは存じますが、卒業生、修了生の皆様が豊橋方面に来られた際にはぜひ研究室のほうへお立ち寄りください。研究室一同心からお待ちしております。この8月に、1993年に修了された倉岡先輩が来られて八橋せんべいを頂きました(感謝)。

最後になりましたが、先輩方の更なる躍進とご健康をお祈りしております。

## 竹市研究室

### 修士1年 有働 将

卒業生、修了生の皆様いかがお過ごしでしょうか。各分野においてご活躍なさっていることと存じます。昨年度、堤和男教授が定年により退官され、現在複合機能材料研究室は竹市力教授、松本明彦助教授のもと博士1名、修士10名、学部10名の計21名で構成されています。それに加え、多い時で3名の短期留学生在籍し大所帯となっております。研究室のメンバーはインドネシア、マレーシア、バングラデシュ、エジプト、中国など様々な国籍の留学生で約1/3を占めており、生活習慣の違いを乗り越えて共に研究活動を行っております。

本研究室は研究を進める上では、耐熱性高分子材料の研究を行う竹市グループと、吸着の研究を行う松本グループに分かれておりますが、それ以外では共に活

動しております。

竹市グループでは主に2種類の高分子、ポリイミドとポリベンゾオキサジンを中心にして、これらの高機能化を目的としたクレイとのナノコンポジットやシリカとのハイブリット、モノマー改良が盛んに行われております。また、芳香族ポリマーの炭素化も行っており、基礎的な研究から発展的な研究まで広い範囲で研究を行っております。

研究室のイベントとしましては、歓迎会や忘年会、追い出し会、バーベキューなどを戒律に配慮しつつ楽しく行っております。短期留學生の入れ替わりが多いため歓迎会とお別れ会は2ヶ月に1回ペースで行われております。

卒業生の皆様、豊橋に来られることがございましたら、どうぞお気軽に研究室にお立ち寄りください。研究室一同心よりお待ちしております。最後になりましたが、卒業生、修了生の皆様のこれからのますますのご活躍を心からお祈りいたしております。



## 退職教員より

### 豊橋からアセアンへ

#### 堤 和 男

2006年3月末で通算38年間の大学人生活がようやく終わった。

大学紛争真只中の1968年助手に任命された当時六本木にあった東京大学生産技術研究所に赴任したが、ここでも防衛庁が近くにあったため連日のデモが続いていた。それから13年後に箱根の山を越えて豊橋に移ってきた。物質工学系での15年間の教育研究生活を送った後、6年間の副学長職を務め、最後の4年間は工学教育国際協力研究センター(ICCEED)で国際協力の業務にほぼ専念し、結局四半世紀を豊橋で過ごした事になる。

高専からの1期生が修士2年生に進学した春に赴任した1981年の豊橋技術科学大学は実質4年目で、学内は新設大学特有の活気と教員と学生とが連携して大学を盛り上げる熱気に溢れていたと思う。伝統と名声に守られ安穩としていた大学から、最も若く、新構想で

伝統がまるで無い、しかし何となく周囲から期待され、華麗なる誤解が有ったにしろ結構な評価を受けていた大学への転身は決して不満を持つものでは無かった。殆どの学生諸君は元気だったし、当時の高専の置かれていた立場、そして高専生への世間の暖かい評価をそのまま受けてきた1960年代生まれの若者は教育と共に研究する相手として手応えのある諸君が多かった。教員には勿論権力指向者もいるし純粋に学問をする人もいたが、様々な前歴を有す教員集団との付き合いも新鮮であった。新しい大学への共通の夢を抱いていたのであろう。

研究は「固体表面」の吸着・付着現象を結局終生行っていた。構造の中に分子サイズの細孔を有す材料および複合材料が対象である。当時は「ナノ」という表現は殆ど無く「細孔への吸着」というような凡そ芸のない表現であったが、大学院時代から40年以上上付き合ったわ

けで最近では資源・環境問題などにも利用されるようになり嬉しい事である。「付着」の研究は30台初めのフランスでの研究がきっかけで30年余になるが、水・油の親和性を高める研究の固体版である。

中間の6年間は自己評価が難しい。自分も含めて「我が儘」「非常識」な面を見せる教員との管理側の一員としてのつきあいは愉快なことばかりでは無かった。当時はまた「改革」「合併」「法人化」の問題が一度に押し寄せた時期でもあった。ただ、副学長としては自由な活動が許されたので、自分の構想の一部は実現できたように思う。しかし、最後には「帯状疱疹」「アテロマ」という病魔まで押し寄せてきた。疲労とストレスが病気を呼んだ最初の経験であった。この6年間に殆ど学生諸君と接することが出来なかったことが悔やまれる。

国際協力への最初の関わりは1992年に遡る。当時、大学は対インドネシアのJICAプロジェクトに組織的対応を開始していた。故佐々木学長から国内委員をやれと言われ、何も分からないままに引き受けいきなり調査団でインドネシアに派遣された。これは文字通りカルチャーショックだった。同行した他大学のメンバーの能力・行動力・パワーに呆然とし、現地の大学環境・生活環境・人々にも驚くことが多かった。一方で、マラッカ海峡を初めて見た時には、昔父親がこの辺りで戦争をしていた事を思いある種の感慨を覚えた。その後、成り行きからタイの2つのプロジェクトとアフリカのプロジェクトにも関係し、特に副学長時代は時間のやりくりに苦労があったが管理運営の仕事の気晴らしと言っては語弊があるがJICAの仕事はリフレッシュになっていた。

2001年に設置されたICCEEDに翌年4月に移ってからは本務が国際協力業務となりアセアン工学系高等教育ネットワーク (AUN/SEED-Net/JICA) プロジェクトに深い関わりを持つようになった。これはアセアン10ヶ国のトップ19大学と、日本からは11大学が支援大学として参画する工学系人材育成プロジェクトである。核になるのは参加大学の若手教員または新卒業生の上位学位取得であり、域内留学による修士号または博士号取得と日本留学による博士号取得がある。人種、文化、言語、宗教などが異なる広域をカバーしたプロジェクトだが、EUのような形のアセアン統一は政治的・経済的には遠い話であろうが、アカデミックの世界ではこのプロジェクトがトリガーになりつつあることが予測される。今は本部のあるバンコックを拠点にこの

プロジェクトの運營業務に従事している。アセアン各国で大学院学生に接するが、陳腐な表現ではあるが目の輝きが素晴らしい。自らが学べることに喜びを感じ、トップ大学のエリートらしく国の将来を背負って立とうとする気概に溢れた学生が多い。現在19大学からの300名近い大学院学生がアセアン5ヶ国10大学と日本の支援大学で学んでいるが、豊橋で最後には出来なかった学生との別な付き合いが生じ、彼(女)らが将来アセアン各国のリーダーとして活躍する日を夢見ている。

四半世紀に亘る豊橋の生活ではあったが、やや毛色の変った生活をするのが出来たためにその長さはあまり認識しない。大学人として教育研究生活にもっと力を割くべきだったかと思うこともあるが別に後悔はない。

世界はまだまだ広いし、世界では高等教育を受けることに無上の喜びを感じる人が大部分であることを若い人達は理解して欲しい。ここ数年間は外から見ていただけだが、世間ばかりか大学までも「弱肉強食」になりつつある日本は正常とは言えない。

追記：以上まで記して提出しようとしたら、タイにクーデターが起こった。9月19日タイ時間夜11時半過ぎにJICAから電話で連絡があり、戒厳令、外出禁止令が出たとのこと。しかし、21日昼にはJICAの禁止令は解除、車で1時間位の大学での会議に出席したが、街は平穏そのもので不謹慎ながら拍子抜けした。日本での総裁交代と共に世界のトップニュースになったようだが、平和な日本の彼我の差を痛感する。

(AUN/SEED-Net/JICAプロジェクト・チーフアドバイザー)



## —第5 工学系同窓会収支報告—

### ■収入の部

	平成17年度予算案	平成17年度決算	平成18年度予算案
前年度繰越金	2,131,572	2,131,572	2,221,241
会費	400,000	310,000	400,000
預金利息	20	9	20
小計	400,020	310,009	400,020
収入合計	2,531,592	2,441,581	2,621,261

### ■支出の部

	平成17年度予算案	平成17年度決算	平成18年度予算案
会報郵送料	120,000	173,130	180,000
タックシール作成費	10,000	10,000	10,000
袋詰め作業代	15,000	13,210	15,000
謝礼	20,000	14,000	14,000
名簿管理経費	15,000	5,000	15,000
ホームページ作成費	5,000	5,000	5,000
小計	185,000	220,340	239,000
次年度繰越金	2,346,592	2,221,241	2,382,261
支出合計	2,531,592	2,441,581	2,621,261

\*郵便料金が予算より高かったのは、同封物があつたなど全体の重量が重かつたためです。また、本年度から慶弔費は予算上0円でしたので削除し、ホームページ作成費を復活させて執行致しました。その他の科目は昨年度と同様に予算を計上しています。

# 第六工学系

## 建設工学系より

### 学内近況報告

地域協働まちづくりリサーチセンター／建設工学系 助教授 松島 史朗

卒業生の皆様にはお変わりなくご活躍のこととお喜び申し上げます。法人化3年目を迎えた大学は、本年創立30周年を迎える節目の年を迎え、種々の企画が催されています。加えて豊橋市制100周年にも当たっており、記念行事「とよはし100祭」関連のイベントが本学も含め各所で開催され賑わいを感じる1年となっています。

建設工学系では昨年度に続き大貝彰先生を系長、青木伸一先生を系長補佐として系運営が行われていますが、本年は建築コースと社会基盤コースが共にJABEE（日本技術者教育認定機構）の認証（5年間）を受けるといふ喜ばしい年になりました。本系は昨年7月にJABEEの受審申請書に当たる自己点検書を提出し、11月に実地審査を受けました。責任者の青木系長補佐、加藤（彰一）助教授（建築コース担当）、三浦助教授（社会基盤コース担当）をはじめ、ほとんどの教職員が多大な努力を払った甲斐があり、本年5月に正式に両コースそろって認証を受けることができました。実地審査に当たっては卒業生へのインタビューも行なわれ、それも評価の対象となりました。アンケートにご協力いただいた方々も含め、ご協力いただいた皆様にあらためて御礼申し上げます。

本年3月には角徹三先生が定年退職され、6月3日にホテル日航豊橋にて記念講演会がOBの方々のご臨席のもと盛大に開催されました。ただし、後任人事をすぐには進められないという現在の大学の事情により、角先生には4月から非常勤講師として引き続き本課程の教育に当たっていただいております。昨年度建設工学系の教員構成には、女性の教員が2名も加わるというこれまでにない変化がありました。10月には構造大講座の教務職員として細野康代先生が着任され、11月には計画大講座の教務職員として中西仁美先生が着任されました。細野先生は、2002年に東京都立大学修士課程を修了され、主に地震後の液化化した地盤の流動特性を研究しておられます。中西先生は、大阪府立大学経済学部経済学科卒業後、2006年香川大学安全システム建設工学専攻博士課程を修了され、博士（工学）の学位を取得されています。専門は交通工学、国土計画で、現在は道路整備による経済波及効果の計測、人口減少時代の土地利用と交通等を研究さ

れております。同じく昨年10月には環境大講座の講師として宋城基（そんそんき）先生が着任されました。出身は韓国の釜山で、1995年に来日後、早稲田大学で博士号（工学）を取得され、北九州市立大学国際環境工学部環境空間デザイン学科助手を務めた後本学へ来られ、建築環境と建築設備の分野の研究を行なっておられます。これら3名の若手教員の着任により、建設工学系には新しい空気が流れています。また、4月には山田聖志先生が構造大講座の教授に、加藤茂先生が助教授に、松井智哉先生が助手に昇任されました。

本年度の就職担当は河邑先生が務めておられます。世の好況感を反映して、就職状況も若干の改善は見られるものの、希望する会社・職種への就職へはまだまだ厳しいものがあるようです。JABEEの認証に甘えることなく、たゆまなく教育・研究活動の改善してゆくことにより本系の競争力の強化を図るとともに、社会貢献活動、地域や産業界との協働、高専との連携強化等、積極的に活動を行なっています。

#### 教 職 員 一 覧

##### ■新任

宋 城基、細野康代（2005年10月から）  
中西仁美（2005年11月から）

##### ■転出

角 徹三（定年退職、名誉教授）

##### ■現職（2006年9月現在）

##### [構造大講座]

教 授：加藤史郎、河邑 眞、山田聖志  
助 授：倉本 洋、三浦均也  
助 手：中澤祥二、松井智哉  
教務職員：細野康代  
技 官：金田隆文

##### [環境大講座]

教 授：青木伸一（系長補佐）、井上隆信、松本 博  
助 授：加藤 茂（ICCEED 兼務）  
講 師：宋 城基  
助 手：山田俊郎  
技 官：片岡三枝子

##### [計画大講座]

教 授：渡邊昭彦、広島康裕、大貝 彰（系長）  
助 授：泉田英雄、加藤彰一、松島史朗（CCR 専任）  
助 手：谷 武、細田智久  
教務職員：中西仁美



## 退官教員より

### 退職の弁

名誉教授 角 徹 三



豊橋技術科学大学発足から1年経過した1979年春、D棟新築工事がようやく完成し、その6, 7, 8階への引越し作業の日に初めて本学に顔を出したように記憶しています。本学就任前は明石高専に9年（非常勤5年後引き続き常勤4年）在職していたこともあり、向学心止まぬ高専生のための新構想大学ということ意識して、かなりの思い入れを持って学生の教育に当たったつもりです。多少鼠兎の引き倒しの感があったかもしれませんが。早々に二期生（新3年生）の担任と入試委員を仰せつかりました。当時の系会議では物事を決めるさいの参考となる前例が皆無なため、「東工大ではこうした、名大ではああした、京大では・・・」という長閑な議論がしばしばでした。最初の1年は単身赴任だったこともあり、名簿順に学生3～4人ずつを週の初め面談と称して自宅に連れ込み、鍋をつつき杯を酌み交わしたものです。肉と野菜は学生もち、米と酒代は自腹を切りました。残飯であとの2日分の夕食代は浮いたため、ほぼ1年間続いたこの企画は差し引き黒字で決着しました。

爾来27年間があつという間に過ぎ去り、2006年3月31日をもって定年退職と相成りました。この間いろんなことがありました。気持ちよく研究・教育に専念できる場を与えていただいた豊橋技術科学大学の教職員スタッフ、卒業生をはじめ学業界で知り合った方々に心からお礼を申し上げます。

ひとつだけ大変悔しかったことは、在任最後の年に明るみになった「耐震偽装事件」です。私の研究対象（鉄筋コンクリート建築構造）に直接関連する事項であっただけに大きなショックを受けました。わが国の建築生産システムの中での構造技術者の役割は意匠屋の無理難題をしっかりと受け止め最終的には構造的に安全な

建物を完成させるという縁の下の力持ち、人間の臓器で言えば「(物言わぬ) 肝臓」のような存在として一般に認識されてきました。私の研究室の卒業生達も、どちらかといえば口下手でこつこつ努力する法令順守タイプが多かったと理解しています。にもかかわらず、現実の事件を目の当たりにして、自分の果たしてきた研究教育に対する貢献度がいかに脆弱なものであったかを思い知らされ、無力感、ひいては一抹の罪悪感にさえ駆られた次第です。

上司の指示に唯々諾々と盲従してさえいれば責任を取らずに済みます。しかし、そういう人生を選択するのであれば、本学で高い授業料を払って苦勞して学士・修士を取る必要はないでしょう。こういう輩には何も言うことはありません。自己の責任で技術的判断を下すことを目指して努力している人、あるいは現に下している人が卒業生のほとんどであると信じています。しかし、そうであればあるほど厳しい試練が待ち受けているのも事実です。グローバル化、規制緩和、公的事業の民間開放等の大義名分のもと経済至上原理が作動し、あらゆる分野に圧力と誘惑の罌が張り巡らされています。職場で孤立することなく技術者としての倫理とプライドを堅持することは決して生易しいことではありません。

ではどうすればよいか。残念ながら、私には答えを示すことができません。私自身がもがき苦しんでいることなのです。ただいえることは、専門馬鹿のままで駄目で社会現象にも関心を持つこと、一人ぼっちではだめで仲間を作ることです。少なくともこの二つだけは大切にしていく必要があるように思います。仲間作りの後ろ盾になるのがまさに豊橋技術科学大学同窓会が果たさねばならない最重要課題だと思います。今回の事件を省みて今卒業生諸君に私から言えることは以上で精一杯というところです。

法人化、研究費削減、定員削減、再編成等日本の国立大学にとって黒船以来の難局を迎えている最中に退職することは、敵前逃亡の感もあり心苦しい限りですが、さりとて足手まといになってもいけないわけで、丁度潮時と自分に言い聞かせています。

最後に、教職員各位の益々のご活躍を祈念するとともに、種々の制度改変は是としつつも、真理の探究と自由闊達さを保障する場としての本学の存在価値だけは是非貫き通して戴きたいことを念じて拙文を閉じさせて頂きます。

## 新任教員より

### 専任講師 宋 城 基 (そん そんき) (建設工学系 環境大講座)

私は韓国の釜山(ぶさん)で生まれ、11年前に日本に来ました。豊橋まで来るまで東京で5年、九州で研究員、助手の生活を5年間過ごしました。豊橋技科大には2005年10月に着任しましたので、もう少しで2年目に入ります。1年間いろいろありましたが、記憶に残ることは6人の4年生の中から5人を選び一人を落とすことでした。改めて人を選ぶことの難しさを実感したところでありました。また、忘れたいことは今までの自分がやってき

た研究データと授業データが飛んでしまい、復旧できなかったことです。皆様もくれぐれも日ごろのバックアップの習慣を身に着けましょう。いざ復旧となると金も時間もかかるし、最悪の場合は復旧できない場合もあります。話が逸れてしまいましたが、まだまだ未熟なもので多くのミスがあるかと思いますが、同窓会のみなさんのご指導ご助言のほどよろしくお願ひします。



### 教務職員 中 西 仁 美 (建設工学系 計画大講座)

2005年11月に建設工学系教務職員として着任致しました。大阪府立大学経済学部経済学科卒業後、証券会社勤務を経て2001年より香川大学工学部安全システム建設工学科にて社会基盤計画に関するプロジェクト研究に携わり、2006年3月香川大学安全システム建設工学専攻博士課程修了。専門は交通工学、国土計画、

政策評価です。豊橋は中京地域の各方面からの交通の結節点であり、東京への交通ネットワークにおいて重要な役割を果たしている都市です。また、表浜などの資源にも恵まれており、豊富な研究材料と環境に恵まれ、教育・研究に携わることができることを大変光栄に思っております。



### 教務職員 細 野 康 代 (建設工学系 構造大講座)

平成17年10月1日付けで建設工学系に教務職員として着任しました。東京電機大学理工学部建設工学科を卒業し、東京都立大学大学院で修士課程を経て博士課程の6年以上にわたり土質力学を学び、砂地盤の液状化について研究をしてきました。着任したときは学期途中だったため不慣れなことも多くありましたが、一年がたち大学での生活に慣れてきました。大学周辺は自然に囲まれ、食べ物もおいしい地域で環境に恵まれていると感じています。

専門分野は地盤工学で、特に液状化に

ついでの要素での実験的研究を行っています。また、実験結果をもとに地盤の流動被害予測のための解析も行っています。地震が発生した時には現地へどのような被害があったのか実際に調査にも行きます。平成16年に起きた新潟県中越地震でも多くの地盤被害が報告されました。人命救助の面からも地盤の安全性が重要であることが考えられ、被害の予測と対策に関する研究を行っていきたくと考えていますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

# 研究室だより

## 松本研究室の近況

博士課程 2年 木村 竜士

松本研究室は、学部5名、修士課程12名、博士課程2名、研究員2名の21名で、内5名が海外出身者です。研究は、主に3つのグループに分けられ、室内空気質の改善をメインとして扱う空気調和班、人体の熱的快適性を明らかにすることをメインとする温熱環境班、都市のエネルギー循環を把握することで都市を評価するLCA（ライフサイクルアセスメント）班があります。

空気調和班では、吸脱着型エアクリナーの開発やエアフィルターのパフォーマンス検証、観葉植物による空気清浄効果を定量的に評価しています。温熱環境班では、工場などの大規模空間における2重屋根の効果、冬期の緊急避難時における簡易シェルターの開発、人体模型移動を考慮した置換換気システムの評価、空気式床冷暖房の評価を行っています。LCA班では、産業連関表によるエネルギー評価やエクセルを利用した都市のエネルギーマップを作成しています。

また、企業からの委託研究は、フリーエージェント制

で興味のある学生が自主的に参加することができます。

これから、環境工学は必要不可欠の分野になってきます。省エネルギーを考慮した設備の開発を行うハード面だけではなく、同時に環境影響評価の推計などソフト面も研究していることが我々の特徴です。



## 建設工学同窓会収支報告

建設工学同窓会幹事長 細田 智久（18期生）

平成17年9月1日から平成18年9月1日までの建設工学同窓会の収支決算

名 目	金 額
<b>■残 金</b>	
平成17年9月1日現在	1,487,202
<b>■収入の部</b>	
全学同窓会からの会費の分配金	560,000
預金利息	176
建設工学同窓会名簿購入希望者からの振込金	6,000
小 計	566,176
<b>■支出の部</b>	
全学同窓会報発送作業等費用	37,000
全学同窓会報郵送用封筒等印刷費	40,815
全学同窓会報郵送費用	134,720
小 計	212,535
<b>■残 金</b>	
平成18年9月1日現在	1,840,843

# 第七工学系

## 知識情報工学系より

### 学内近況報告

知識情報工学系 系長 堀川 順 生

卒業生、修了生の皆様におかれましては、ますますご活躍のことと思います。本年4月から、私、堀川が系長、増山教授が系長補佐を務めています。知識情報工学系の近況をご紹介します。

本年3月に阿部英次教授が定年退職されました。本年4月から岡田美智男教授が機能情報工学講座に赴任されました。岡田教授は公募で採用されました。本系赴任前は国際電気通信基礎技術研究所 (ATR) で、インタラクティブロボット Muu の製作など、次世代ヒューマンインターフェイスに関する研究を行っていました。赴任後は「コミュニケーションとインターフェイスの認知科学」、「関係発達論的ロボティクス」の分野の教育・研究を担当されています。本年4月から、藤島悟志助手が分子情報工学講座に赴任されました。藤島助手は本系出身で、専門は topological fragment spectra (TFS) を用いた薬物活性分類と薬物構造データマイニングです。また、本年7月から原田耕治助手が情報科学講座に赴任されました。原田助手は免疫システムの非線形ダイナミクスが専門で、免疫アルゴリズムや抗体コンピューティングについて研究しています。

本年は、知識情報工学課程が JABEE (日本技術者教育認定機構) の審査を受けます。2000年度から始めた本系教育課程の改革が一段落したことを踏まえて、昨年度から本格的に自己点検書の作成に入りました。JABEE 受審対策責任者の高橋教授のもと、本系教職員および同窓生、および本学の関係教職員の皆様のご協力により、本年7月に自己点検書が完成し、JABEE に提出しました。10月に実地審査の予定です。ご協力いただいた皆様にこの場をお借りして御礼申し上げます。卒業生・修了生の皆様には学習・教育目標の達成度評価や社会からの評価に関するアンケートにご協力いただき大変ありがとうございました。このアンケートは本系にとって大変貴重な情報です。このアンケート結果をもとに、さらに教育課程の改革を続けて行きます。なお、実地審査には卒業生のインタビューが含まれていますので、何人かの卒業生にはご協力をお願いいただくこととなりますが、その際にはご協力をお願い申し上げます。

本年度の就職状況は、景気の上向き傾向から企業の採用枠が昨年度に比べて大幅に増えました。本系の就職状況も大変良くなっています。一方、大学は法人化後2年目となり、予算や人員の削減が始まり知識情報工学系も対応を迫られています。大学はこれから大変な時代を迎えます。

以上、知識情報工学系の近況をご紹介します。本年は本学開講30周年にあたり、その記念事業が予定さ

れています。同窓生の皆様にご協力をお願い申し上げます。

末尾になりましたが、同窓生の皆様のご発展をお祈り申し上げます。また、豊橋付近にお出向の際にはぜひお立ち寄りください。

#### 教職員一覧及び学生現員 (平成18年9月現在)

##### [情報科学大講座]

教授：磯田定宏、増山 繁、石田好輝  
助 教授：河合和久、市川周一、村越一支  
助 手：相田 慎、酒井浩之、原田耕治

##### [機能情報工学大講座]

教授：新田恒雄、堀川順生  
助 教授：金澤 靖、杉浦彰彦、北崎充晃  
助 手：桂田浩一、杉本俊二

##### [分子情報工学大講座]

教授：関野秀男、高橋由雅  
助 教授：栗田典之、後藤仁志  
講 師：加藤博明  
助 手：墨 智成、藤島悟志

##### [事務関係]

事務職員：佐野友子、河合奈穂子  
技術職員：小西和孝

##### [学生現員]

学 部：1年次 12名、2年次 15名、  
3年次 53名、4年次 69名  
修 士：1年次 55名、2年次 56名

## 同窓会事務局より

### 〈平成17年度収支報告〉

豊橋技術科学大学 7系同窓会  
三井住友銀行 豊橋支店 普通預金 口座番号 884420

項 目	平成17年度決算
〈収入の部〉	
前年度繰越金	4,026,815
会費(各系分配金)	520,000
預 金 利 息	33
収 入 合 計	4,546,848
〈支出の部〉	
会 報 経 費	
会報発送費	108,720
会報発送作業費	23,619
原稿執筆御礼	10,000
名簿管理経費	15,000
小 計	157,339
次年度繰越金	4,389,509
支 出 合 計	4,546,848

## 退官教官より

### 老兵は消えます

知識情報工学系 名誉教授 阿部 英次



卒業生の皆さん、お元気ですか？

私は本年3月末日に定年退職いたしました。昭和53年4月に物質工学系の助教授として着任以来、28年間の豊橋生活でした。昭和57年には分析計測センターへ移り、平成2年からは知識情報工学系に所属していました。

この間、皆様方から頂きました多くのご温情、ご支援に厚く御礼申し上げます。本来ならば、親しくお目にかかって申し上げたいところだったのですが、中々思うに任せませんので取り敢えずこの紙面を借りて失礼致します。

退職後の生活をどこで過ごすかにつきましては、色々考えました。故郷の秋田県大館市は親類縁者も多いのですが、如何せん日本海側で冬になると曇天続きで、寒さも厳しく温暖な豊橋から年寄りに移り住むのには不向きだろうとやめました。また、これまでの人生の中の28年間と言う最も長い期間を過ごした豊橋については住み心地も悪くなく、大いに悩みましたが、やはり、東北人である自分にとっては異国だったと言う結論に

なりました。と言うことで、大学入学以来17年間を過ごし、その間結婚し3人の息子たちを儲けた、いわば人生の中で最も実りの多かった仙台を終の棲家と決めました。

晴耕雨読という言葉がありますが、耕すほどの畑もありませんので、専ら「読」に専念してのんびり暮らしたいと考えておりますが、果たしてどうなります事やら。

最後に一言「老兵は死なず、ただ消え行くのみ」\*。

\*原文は昔の占領軍最高司令官マッカーサー元帥が議会で行った退任演説で引用した言葉

Old soldiers never die, they just fade away.

これを最終講義の際引用したところ、続きがあるよと卒業生の一人からフォローがありました。

Young soldiers wish they'd fade away.

だそうです。

また、古人曰く「去者日以疎、生者日以親」

では皆様御機嫌よう、さようなら。



# 研究室だより

## 〈情報科学大講座〉

### 石田研究室の近況

知識情報工学専攻 修士1年 藤澤 雅行

卒業生、修了生の皆様いかがお過ごしでしょうか。皆様におかれましては、それぞれの職場において大いに活躍されていることと存じます。それでは石田研究室の近況について報告させていただきます。

現在の研究室は石田好輝教授を中心として、修士5名、学部3名、そして本年度7月に赴任された原田耕治助手の総勢10名で構成されています。本研究室はシステム科学研究室として複雑系やネットワークに関する問題に取り組んでおります。現在、特に力を入れている研究はネットワークのクリーン化問題です。大規模・複雑化したネットワークは修復が困難になります。そこでネットワークの構成要素同士が自動修復する自己修復ネットワークモデルについて研究しています。主な研究テーマとして、(1) 自己修復ネットワークにおける戦略的修復、(2) 自己修復ネットワークの臨界点の考察、(3) プレゼンテーションのためのダイアグラム推論等があります。

週一回の定例会では各自の研究の進捗報告を行っており、議論を交えながら研究に励んでおります。また修士の学生は国際学会での発表を目標としたゼミを行っています。定例会やゼミのほか自主的に英語やネットワークの勉強会も行っております。研究室の行事としては新入生歓迎会、忘年会、追い出しコンパ等あ

りメンバー間の親睦を深めております。

皆様ご多忙とは存じますが豊橋近辺に来られる機会がありましたらぜひ研究室へお立ち寄りください。石田研究室一同心よりお待ちしております。その際、ご助言や実社会での貴重な体験等をお聞かせいただければ幸いです。また、研究室の状況は石田研究室のwebページ (<http://www.sys.tutkie.tut.ac.jp/>) にて公開しておりますので、御覧頂ければ幸いです。

最後になりましたが諸先輩方の今後の更なるご活躍を心よりお祈りしております。



## 〈分子情報工学大講座〉

### 栗田研究室の近況

知識情報工学専攻 博士1年 永田 昇



卒業生・修了生の皆さん、お元気ですか？ 栗田研一同は相も変わらず元気一杯です。それも一重に偉大な先人である皆様から受け継いだ栗田研スピリットのおかげだと思います。現在は栗田典之助教授を筆頭に博士二名、修士十名、学部五名と昔に比べてずいぶんと巨大な組織になっております。

それでは早速これまでの活動報告に移りたいと思います。えーまず今年の業績と致しまして何よりも報告いたしたいのは、毎年恒例の栗田研・関野研・後藤研の三研究室合同スポーツ大会(春場所)におきまして、去年の雪辱を晴らし見事栗田研チームが勝利をもぎ取ること成功致しました。ちなみに競技は今年もソフトボールでございます。去年は人数調整の関係でエー

ス岩淵が敵チームで好プレーを連続したがためにやるせない敗北感を味わいましたが、今年は味方チームで活躍してくれたことが最も大きな勝因だと思います。残念ながら岩淵さんは来年のスポーツ大会には参加できませんが、来年も連覇を狙っていけるよう皆力を合わせ、より一層精進致す所存であります。そして、戦いが終わった後は強敵が友となり、楽しい打ち上げで身体の疲れを癒しました。今年の会場は駅前の丸栄屋上のビアガーデンでした。ビールの味は格別で、参加して頂いた方々には非常にご満足頂けたと思います。

次にまたまた毎年恒例の行事の報告になりますが、栗田研夏季合宿の報告をさせて頂きたいと思います。今年の企画者は修士一年の山口さんで、静岡県伊豆に行きまして。伊豆といえば温泉、青い海、白い砂浜…のはずだったのですが当日は残念ながら不運

なことに大雨。ひと夏の思い出もスイカ割りもビーチバレー大会も夏イベントは全てキャンセルとなってしまいました。しかし、せっかく伊豆まで泊まりに来たのだということで麻雀大会に温泉、BBQは決行し、二日目には観光名所である熱川バナナワニ園観光と、それなりに楽しむことができました。バナナワニ園はちょっと期待はずれだったものの、やっぱり旅行はいいものですね。

と、まあこんな感じで栗田研究室は仲良く楽しくやっております。各自の研究テーマなどは、webページを作る予定なので、できましたらまた御報告させていただきます。もし、皆様が豊橋近辺に寄られることがありましたら、是非栗田研究室にも顔を出してください。それでは社会人はとても大変だと思いますが、頑張ってください。研究室一同、心よりお待ちしております。

## 平成 17 年度 海外短期留学レポート

知識情報工学専攻 修士2年 鈴木 琢也



2006年1月から約2ヶ月間、ニューヨークはマンハッタンに位置するニューヨーク大学に海外インターンシップに行き来しました。日本人の先生による日本語を対象とした自然言語処理の研究ということで、「果たして海外に行く意義があるのだろうか？」と行く前に多少疑念を感じていましたが、どうやらそれは杞憂のようでした。

### 大学について

マンハッタンの聳え立つビルの摩天楼の中、街のいたるところに校舎が点在する大学。これがニューヨーク大学です。私が通うことになった校舎は、タイムズスクエアから地下鉄で4駅の、ブロードウェイに面したビルの7階でした。あまりの立地条件に腰が抜けそうになります。

私が今回お世話になったのは、コンピュータサイエ

ンス学科の関根研究室。そこでは、英語と日本語の双方で自然言語処理（工学的に人間の話す言葉を操るシステムを作ること）の研究が行われており、私は日本語を対象とした研究をさせていただきました。まあ餅は餅屋に、ですかね。

### 生活について

先生が滞在者用に借りられているクイーンズの1LDKアパートの一室で、一緒にいった別の学科の人達と、3人で共同生活しました。1LDKで3人です。皆で料理をしたり駄弁りあつたりと楽しいこともありましたが、やっぱりけっこうキツかったです（笑）。O君、風邪をうつしてしまつてゴメンよ〜。

### 得たものについて

基本的に研究室でやった事は、日本でやっていたことと大して変わりありません。朝出向いて、日本語環境のPCにログインして、ひたすらプログラミングと考察。インターネットからダウンロードした論文を読む。そして、先生や共同研究者と日本語でディスカッション。しかしそれでも、海外でのインターンシップでなければ得がたい勉強をたくさんさせていただきました。とりわけ、「ビジネスの視点」というものを学んだのが自分の中では大きかったと思います。自分達のやっている研究を、社会の中で、具体的にどう役立てていくか。そして、いかに儲けるか。ベンチャースピリット、つてやつでしょうか。そういったものを肌でひしひしと感じることができたのが、極めて意義深かったなと思います。

最後になりましたが、今回の海外インターンシップに際してお世話になった方々、関根先生をはじめ研究室の方々、調整をしてくださった増山先生、14時間の時差の中電話で私を励ましてくれた両親に、紙面を借りて御礼申し上げます。

# 第八工学系

## エコロジー工学系より

### 学内近況報告

#### エコロジー工学系近況報告

エコロジー工学系長 水野 彰

同窓生の皆様、ますますご活躍のことお慶び申し上げます。エコロジー工学系の近況をデータで報告させていただきます。卒業生が御世話になることがあると思いますがよろしくごお願い申し上げます。また研究テーマからエコロジーで重要な基礎的な研究項目を知っていただけたら嬉しく思います。皆様のご健康と、いっそうのご発展、ご活躍を祈念申し上げます。

#### 1. 人事異動など

人事異動：

- H18.3/31 鷲田伸明先生 退職
- H18.1/31 桂 進司先生 退職 群馬大学に転任
- H18.4/1 成瀬一郎先生 ICEED (工学教育国際協力研究センター) 教授に昇任
- H18.8/1 高島和則先生 助教授に昇任

長期海外出張：

- H17.3/22～H18.3/19 後藤尚弘先生 オーストリア
- H18.4/24～H19.3/10 南 亘先生 カナダ
- H18.6 ～H18.12 高島和則先生 フランス

#### 2. 修士研究の内容

【木曾研】●有機溶質のNF膜分離に及ぼす分子篩い作用と膜への吸着の影響 ●パイロット規模のメッシュろ過一回分式活性汚泥法による余剰汚泥削減特性に関する研究 ●メッシュろ過バイオリクターによる難分解性有機物質の処理特性 ●オンライン固相抽出法によるリンの超高感度分析法の開発 ●ハイドロタルサイトによるヒ素除去における共存成分の影響

【藤江・後藤・大門研】●超臨界二酸化炭素を用いた土壌微生物からの菌体キノンおよびリン脂質脂肪酸の抽出 ●産業連関表を基とした愛知県物質フロー解析に関する研究 ●食生活における環境への意識・行動が廃棄物発生に与える影響解析 ●地産地消による環境負荷低減と観光産業振興の定量的評価に関する研究

【平石研】●半嫌気ダイオキシン分解マイクロコズムより分離された好気性ジベンゾフラン分解菌の分解特性評価 ●新規ダイオキシン分解細菌 *Nocardioides aromaticivorans* の分解遺伝子解析

【菊池・田中照研】●真正細菌リボヌクレアーゼPの基質認識の解析 ●大腸菌リボヌクレアーゼPの活性中心近傍部位と基質結合部位の役割の解析 ●HbA1cに結合するRNA aptamerの創製 ●網羅的アプタマー創製法の開発 ●*Sphingobium yanoikuyae* B1株に結合するRNAアプタマーの創製 ●好熱菌 *Moorella thermoacetica* 胞子に結合するRNAアプタマーの創製 ●海洋性光合成細菌 *Rhodovulum sulfidophilum* の生育と菌体外に分泌する核酸に関する研究

【浴研】●ゲノム安定性維持に関する新規線虫遺伝子

D2005.5の機能解析 ●線虫のゲノム安定化と生殖細胞形成に関するD2005.5タンパク質の大量調製

【辻研】●ポリ(L-乳酸)-カーボンナノ素材複合材料の物理特性と生分解性 ●残存結晶領域を用いた生分解性ポリエステルブロック共重合体の合成 ●ポリ(フェニル乳酸)とポリ乳酸とのポリマーブレンドおよびポリ(フェニル乳酸-乳酸)の熱的特性 ●固体高分解能<sup>13</sup>C NMR法を用いたポリ(L-乳酸)の結晶化および吸水に伴う運動性変化の解析 ●ポリ乳酸ステレオコンプレックスの球晶成長挙動

【北田研】●東三河地域から渥美湾への全窒素負荷量予測に関する研究 ●MM5-CMAQ大気シミュレーションシステムのパフォーマンス評価—PEACE-C観測データを用いて—

【成瀬研】●燃焼プロセスにおける水銀の反応挙動に関する研究 ●貝殻の脱硫・脱塩剤への適用に関する研究 ●油燃焼過程における微粒子の生成特性解明に関する研究

【田中三研】●SQUIDを用いた異種金属接合界面の非破壊検査に関する研究 ●パルス管冷凍機クライオスタットの開発とSQUID応用に関する研究 ●マルチch SQUID磁気センサの試作とバイオ計測応用に関する研究 ●アルミ溶接部のSQUID非破壊検査に関する研究

【水野・桂研】●エマルジョンを用いたDNAアプタマーのセレクション法の開発 ●微粒子を用いたDNA断片回収法の開発 ●蛍光顕微鏡視野内における exonuclease IIIによる2本鎖DNA消化の1分子直接観察 ●蛍光標識Replication protein AによるFRETを利用した1本鎖領域可視化技術の開発 ●電界イオン顕微鏡の作製と塩基配列解析への応用 ●放電プラズマを用いたディーゼル微粒子(PM)の捕集と処理 ●放電プラズマを用いた難分解性物質含有排水の酸化処理

【鷲田研】●可変真空紫外レーザーによる光イオン化質量分析装置の開発 ●ビノキシ型ラジカルと酸素分子の高温反応に関する研究

【金研】●HFCの分解特性

#### 3. 修士修了生の就職先

アイエックス・ナレッジ(株)、アイシン精機(株)、石川島播磨重工業(株)、(株)INAX、(株)エステム、NTTデータテクノロジ(株)、太田油脂(株)、カシオ計算機(株)、ガステックサービス(株)、(株)川本製作所、清田産業(株)、小林記録紙(株)、小林製薬(株)、(株)サムテック、敷島製パン(株)、ジャパングアテックス(株)、創味食品工業(株)、(株)ソニーCPラボラトリーズ、大同メタル工業(株)、高千穂交易(株)、(株)田中化学研究所、テルモ(株)、東京大学医学系研究科、日星電気(株)、(株)ニデック、日本ガス(株)、日本ストライカー(株)、日本電産(株)、日本電子(株)、(株)パスコ、パナック(株)、浜松ホトニクス(株)、林テレンプ(株)、(株)バルコムモーターズ、日立ホーム&ライフソリューション(株)、北陸放送(株)、三菱電機(株)、松下環境空調エンジニアリング(株)、矢崎総業(株)、雪印乳業(株)、(株)ユニカフェ、理科研(株)、本学博士課程進学3名 以上



## 退職教員より

### 退職後の近況

鷺田 伸明

豊橋技術科学大学には平成16年4月からお世話になり、本年3月に停年退職いたしました。2年間と短い期間でありましたが、皆様のおかげで気持ちの良い技科大での生活をエンジョイできましたことをあらためて御礼申し上げます。



4月からは理化学研究所・鈴木化学反応研究室の研究嘱託として理研にオフィスを持ち、物理化学の仕事が続けております。若いポスト・ドクの人達のセミナーなどに参加していると、フェムト秒現象、テラヘルツ分光、X線レーザーなどが若者の物理化学のキーワードのようです。化学反応のフェムト秒現象では実験と理論（量子化学計算）が一体化していて、片方だけでは成り立たなくなっています。

4月からのもう一つの仕事として環境省の持っている競争的資金（地球環境研究総合推進費、環境技術開発等推進費、地球温暖化対策技術開発事業、廃棄物処理等科学研究費補助金の4本、総額約82億円）のプログラム・ディレクター（PD）をしております。8月から9月は一番忙しい時期で、プロジェクトの中間評価に加えてこれから全省庁の競争的資金（例えば文科省であれば科研費補助金、21世紀COE、戦略的創造研究推進事業などもこれに入ります。総額4700億円ある）の仕組みおよび成果についての総合科学会議による評価（正式には優先順位付けといい、SABCの優先順位が付く）が始まります。このヒヤリングでS評価をもらおうと財務省の指導で来年度予算が増額され、B評価だと減額され、Cをもらおうとアウトです。9月は全競争的資金に対してヒヤリングがあり、優先順位が決まります。そんなことで、目下PDとしての仕事の正念場を迎えているところです。

最近では環境研究を取り巻く環境が変りつつあると実感しております。環境に思い入れを持つファンが増えているのは大変結構なのですが、ファンだけで固めて閉鎖的になることは避けなければと思っております。

技科大の皆様の奮闘を祈っております。

## 転出教員より

### 技科大を離れて

桂 進司

早いもので豊橋技科大を離任し、群馬大学工学部生物化学工学科の教授に異動して、半年あまり経ちました。豊橋技科大ではエコロジー工学系の助手、助教授として12年余り勤務させて



いただきましたが、その間には素晴らしい上司の先生方や同僚の先生方、そして意欲ある大学院生に恵まれて、自由に新しい研究テーマへのチャレンジをさせていただき、大変感謝しております。

技科大を離れて、外から改めて技科大を見ますと、工学部のみで小さくまとまっているが故に、コンパクトで小回りの利く良さを生かしている大学という印象を改めて持ちました。風通しの良く、コンパクトで小回りの利く大学、そして若い先生方が活躍する場が与えられているという特徴は今後ますます重要となってくると思いますので、今後ともその特徴を伸ばし、特徴的な大学としてますますご発展をすることを祈っております。

これまでは、先生方に提供していただいた居心地の良い環境で研究・教育活動を進めてこられたわけですが、異動して立場も変わりましたので、今後は技科大でお世話になった先生方をお手本に良い研究・教育環境を提供し、基礎的な知識を持ちながら自由に発想できる技術者・研究者を育てられるように努力したいと考えております。また、併せて、豊橋技科大で進めてきた研究をさらに発展させて、新しい分野にもチャレンジしたいと考えております。

新任地の群馬大学工学部では生物化学工学科に勤務しておりますが、来年度から改組により環境プロセス工学科に移ることになりました。本学科は化学工学をベースとして環境も考慮した化学プロセスを開発できる技術者を育てていくことを目指しておりますので、豊橋技科大・エコロジー工学系と共通する部分もあるかと存じます。また、各種研究会や学会で技科大の先生方ともお会いする機会があるかと存じますので、今後ともご指導のほどよろしく願います。

# エコロジー工学系 トピックス

## 「科博出展の報告」

21世紀COEプログラム「未来社会の生態恒常性工学」の成果を市民の方々に紹介することを目的として、2006年3月10日から19日にかけて国立科学博物館（東京、上野）において「未来環境エコテクノロジー展」を開催しました。開催中、11000人の来場者があり、持続可能な社会に対する人々の関心の高さが伺われました。さらに多くの人々にこの成果を紹介するために、5月上旬には豊橋市役所において、7月下旬に本学のオープンキャンパスにおいて展示会を行ったところ、市民の方々から大きな反響がありました。今後、愛知県県庁や技科大祭において、展示会を実施する予定です。この成果は、今後、JST「バイオマス利活用システムの設計・評価手法」、「豊橋バイオマスネットワークシティー構想（案）」、および先端農業リサーチセンター設立のための礎となります。現在、本学G棟二階玄関ホールにおいて常設展示を行っております。機会がございましたらぜひお立ち寄りください。

(COE博士研究員 山崎 真嗣)



## 近況報告

第8工学系第1期卒業生の山本高久です。卒業生、修了生の皆様、いかがおすごでしょうか。各分野の最前線でご活躍のことと思います。私は8系学部を卒業後、他大学の大学院へと進学しておりましたが、縁あって第1工学系助手として平成14年4月に技科大に戻ってきました。現在は次世代型原子炉の炉内熱流動や改質反応器内の反応性流体の数値解析に関する研究に従事しております。私が8系に在籍していた頃は、まだG棟は完成しておらず、卒研時に所属していた大竹・成瀬研はD棟やD2棟に研究室がありました。今、私の居室は、その当時大竹・成瀬研だった部屋のすぐ近くにあり、なんとも不思議な気持ちになります。また、夜遅くまで研究室に居た学生当時の事が思い出され、月日の流れを感じます。

8系は、1期の卒業生、修了生でも30歳台前半と、新設されてまだ間もない若い学科です。それだけに私たち卒業生、修了生が協力し合い、8系を盛り立てたいら良いなと思っています。技科大までお越しの際は、

是非、私の研究室にもお立ち寄りください。それでは、(平成18年8月)



(国際会議で訪れた米国ワシントンD.C.にて)

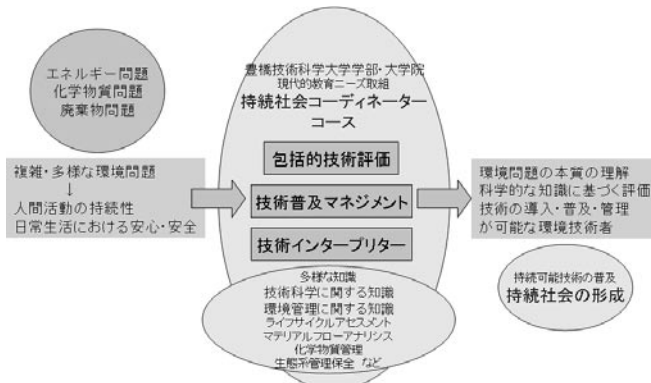
## 現代GPに採択される!

現代GPとは文科省による大学教育の充実に関する助成制度であり、正式には「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」といいます (GPはGood Practiceの略です)。文科省が社会的要請の強い政策課題に関するテーマを設定し、これに対して大学、短期大学、高等専門学校が独自の大学教育の取組を申請し、優れた取組が選定されるものです。いわばCOEの教育版であり、採択されることはとても名誉なことです。

今回採択されたのは「持続社会コーディネーター育成」という取組です。これは持続可能社会形成という社会的要請に答えるべく、環境技術の普及に貢献できる人材を目指して、

- 1 包括的に技術を評価する手法 (LCA, 化学物質管理など)
- 2 技術開発・普及に関するプロジェクトをマネジメントする手法
- 3 技術を正しく、わかりやすく説明する手法 (環境教育も含みます)

に関するカリキュラムを充実させるものです。3年の助成期間においてカリキュラムを検討し、「持続社会コーディネーター」コースを設置し、学生や社会人を受け入れる予定です。これからも社会の要請に合致した優秀な人材を輩出し続けますので、どうぞご期待ください。(助教授 後藤尚弘)



# 研究室だより

## 〈生物応用工学講座〉

### 田中三郎研究室の近況

エコロジー工学系助手 廿日出 好

卒業生、修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場で大いに活躍のことと存じます。では、この場をお借りして田中三郎研究室の近況について御報告させていただきます。

現在、研究室の構成は、田中三郎教授以下、私と、修士課程7名、学部生3名の計12名です。私たちの研究テーマは、現在、SQUIDを用いたバイオ応用と非破壊検査の二つに大別できますが、バイオ応用では「磁気微粒子を用いた高分子検出」と「細胞・小動物由来の磁気計測」の研究を、また非破壊検査では「アルミ容器の検査」、「摩擦攪拌接合の検査」、「異物検査用磁気シールドの開発」そして「SQUID NMR」の研究を行っています。

皆様に報告したいことの一つに、SQUIDの分野において世界的に有名な研究者であり、田中教授の親友でもあるイ・ツァン氏（写真前列右から二番目）が、ドイツのユーリッヒ研究センターから客員教授として来日し、今年4月から6月末まで研究室のメンバーとして共に研究を行うという名誉なことがあったことです。特に一緒に研究を行った修士二年の鳥谷部と私は、イ氏と交友を深めることができ、大変貴重な体験となりました。イ氏とまた国際会議で会うのが楽しみです。さらに名誉なこととして、田中教授が、食品中異物



検査に関する研究の成果により、2006年4月28日、栄えある第38回市村学術賞・貢献賞を受賞しました。異物検査は、本学とアドバンスフードテック(株)、住友電気ハイテックス(株)の共同研究により商品化が行われた高温超伝導SQUID応用技術の一つであり、私たちの研究が世間の役に立っているだけでなく、高く評価されていると皆実感しており、ますます熱心に研究を進めようと意気盛んになっております。また、私も、去年のヨーロッパでの超伝導応用会議EUCAS2005で優秀発表賞を、2006年度春季応用物理学会で講演奨励賞をいただきました。これも卒業生・修了生・現役学生皆様の研究成果と、田中教授を始めとするエコロジー工学系教職員皆様のご指導ご鞭撻のおかげであります。感謝の念を述べると共に、卒業生の皆様の今後のますますの御活躍を祈念して筆をおかせていただきます。最後になりますが、近くにお越しの際にはぜひ研究室にもおいで下さい。

エコロジー工学系関連職員の現況（平成18年9月）

[生物基礎工学大講座]

教授：菊池 洋、平石 明  
 助教授：辻 秀人、浴 俊彦、田中 照通  
 助手：二又 裕之  
 教務職員：梅影 創

[生物応用工学大講座]

教授：水野 彰、藤江 幸一、田中 三郎  
 助教授：西 和久、後藤 尚弘、大門 裕之 (InFEED)、  
 高島 和則  
 助手：安田 八郎、廿日出 好

[生物応用工学大講座]

教授：北田 敏廣、木曾 祥秋、成瀬 一郎 (ICEED)  
 助教授：金 熙濬  
 助手：倉田 学児、小口 達夫  
 教務職員：南 亘

[技術専門職員] 坂井 悦子

[事務職員] 柴田 珠子、坂上 千恵子 (非常勤)

[関連役職員] 松為 宏幸 (副学長)

## 8系同窓会 会計収支報告

(平成17年4月～平成18年3月分)

項目	金額 (円)
〈収入の部〉	
前年繰り越し金	4,214,467
会費 (各系分配分)	340,000
預金利息	33
収入合計	4,554,500
〈支出の部〉	
8系会報制作費	101,053
会報発送費	85,872
次年度繰越金	4,367,575
支出合計	4,554,500

# 第九学系

## 人文・社会工学系より

### 学内近況報告

渋澤 博幸

人文・社会工学系のメンバーは、平成18年度は、山口誠教授を系長として、教育と研究の活動を元気に続けています。工学教育国際協力研究センターの黒田先生がJICA専門家としてベトナムに派遣され、4月から池田先生が新たに着任されています。

#### 〈教職員一覧〉

##### [人文・社会工学系]

教授：山口 誠(系長:併)、山本 淳、浜島昭二、藤原孝男、宮田 譲

助教授：相京邦宏、尾碕一志、渋澤博幸、中森康之、西村政人、平松登志樹

外国人教師：David Levin

##### [語学センター]

教授：伊藤光彦(センター長)、小杉隆芳、山本 淳

講師：田村真奈美

教務職員：木内香代子

##### [留学生センター]

教授：浜島昭二(センター長:併)、氏平 明

助教授：加藤三保子、林 孝彦、村松由起子、吉村弓子

##### [体育・保健センター]

教授：安田好文(センター長)

助教授：佐久間邦弘

##### [未来技術流動研究センター]

教授：岩本容岳

助手：白川正知

##### [工学教育国際協力研究センター]

助教授：黒田清彦

助教授：池田則宏

### 計画・経営科学講座の近況

修士課程 2年 中澤 光介

修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場で大いにご活躍されていることと存じます。

現在の計画・経営科学講座は、山口誠教授、宮田譲教授、藤原孝男教授、平松登志樹助教授、渋澤博幸助教授をはじめ、博士課程1名、修士課程1名の計7名で構成されています。また、建設工学系から修士学生1名が当講座のゼミに参加しています。

計画・経営科学講座の研究分野は、経済学・経営学に関するもので、その中心になるのは政策論・計画論・経営管理論です。研究内容としては、社会経済や環境の構造分析・将来予測、政策評価手法の開発及び政策や計画支援システムの策定を行っております。具体的には地域計量経済モデル分析、環境認識・環境評価、産業・技術発達史、工業化の文化的影響、社会最適資本供給、地域システム分析、人工物の整理手法の開発、各種分析手法の開発などです。詳しくは計画・経営科学講座のウェブサイト <http://pm.hse.tut.ac.jp/index.html> をご覧下さい。

本講座では、社会、経済、経営に興味、関心を持つ学生が研究を行うことのできる社会計画工学コースが大学院からあり、学内と学外から学生を受け入れています。中国からの留学生は藤原教授の指導のもとで「研究開発プロジェクト管理から新規事業創出まで：不確実性の環境下でのテクノロジー・マネジメントのあり方」というタイトルで博士論文を執筆しています。建設工学系からの修士学生は、宮田教授の指導のもとで『応用都市経済モデルを用いた幹線道路による経済効果計測—三遠地域を対象として—』というタイトルで、東三河および遠州地域で計画されている高規格道路整備の経済波及効果の計測について研究しています。私は、山口教授・渋澤助教授の指導のもとで水需給に関する変数を導入して東三河地域の社会経済の分析を試みる地域計量経済モデルの構築について勉強しています。

修了生の皆様、豊橋においての際はぜひ研究室にお立ち寄りの上、お仕事の話などをお聞かせください。最後になりましたが、先輩方のこれからのますますのご活躍をお祈りしております。

## 第55回東海地区国立大学体育大会 結果一覧 得点表

平成18年6月24日～25日、7月1日～2日の日程で、第55回東海地区国立大学体育大会が開催されました。

(男子)

競技種目	大学名	岐阜大		名工大		豊技大		愛教大		浜医大		静岡大		三重大		名大		備考
		順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	
1	陸上競技	1	10	6	3	7	2	4	5	8	1	3	6	5	4	2	8	
2	水泳	3	6	6	3	8	1	5	4	7	2	2	8	4	5	1	10	
3	硬式野球部	5	2	1	8	5	2	3	4.5			5	2	2	6	3	4.5	
4	準硬式野球	5	2.5	1	10	5	2.5	3	6	2	8	5	2.5	5	2.5	4	5	
5	硬式テニス	3	6	5	4	8	1	4	5	2	8	7	2	6	3	1	10	
6	ソフトテニス	5	2	6	1			1	6			3	4	4	3	2	5	
7	バスケットボール	1	10	6	3	8	1	4	5	7	2	3	6	5	4	2	8	
8	バレーボール	6	3	7	2	4	5	1	10	8	1	2	8	5	4	3	6	
9	卓球	1	8	4	4	6	2	7	1			2	6	3	5	5	3	
10	バドミントン	1	10	5	4	8	1	7	2	4	5	3	6	6	3	2	8	
11	サッカー	6	3	7	2	8	1	2	8	3	6	5	4	4	5	1	10	
12	ハンドボール	2	6	4	4			1	8	6	2	5	3	7	1	3	5	
13	柔道	1	8	5	2	5	2	4	4			2	6	5	2	3	5	
14	剣道	1	10	5	2.5	5	2.5	3	6	5	2.5	5	2.5	4	5	2	8	
15	空手道	5	4	4	5	7	2	8	1	1	10	3	6	6	3	2	8	
16	弓道	4	4	3	5			5	2	5	2	1	8	2	6	5	2	
17	体操	1	5					4	2			3	3	5	1	2	4	
18	馬術	2	5	3	4			1	6			4	2	4	2	4	2	
19	アーチェリー	4	2					5	1			1	5	3	3	2	4	
20	少林寺拳法	4	2			5	1	3	3					1	5	2	4	
合計得点			108.5		66.5		26		89.5		49.5		90		72.5		119.5	
男子順位			2		6		8		4		7		3		5		1	

(女子)

競技種目	大学名	岐阜大		名工大		豊技大		愛教大		浜医大		静岡大		三重大		名大		備考	
		順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点		
1	1	陸上競技	3	5	5	3			1	8	7	1	2	6	6	2	4	4	
2	2	水泳	1	8	7	1			2	6	5	3	6	2	3	5	4	4	
3	5	硬式テニス	2	6	5	2			4	4	3	5	5	2	5	2	1	8	
4	6	ソフトテニス																	雨天オープン
5	7	バスケットボール	4	3					2	5	6	1	1	6	3	4	5	2	
6	8	バレーボール	4	4	6	2			1	8	7	1	3	5	2	6	5	3	
7	9	卓球	4	2					5	1			2	4	1	5	3	3	
8	10	バドミントン	6	2	7	1			1	8	5	3	2	6	4	4	3	5	
9	12	ハンドボール	1												2				オープン
10	13	柔道	1						2								3		オープン
11	14	剣道	3	3					4	2			2	4	5	1	1	5	
12	15	空手道	4	3	5	2			6	1	1	6	2	5	3	4			
13	16	弓道	4	4	6	1.5			2	6	6	1.5	3	5	1	8	5	3	
14	17	体操	1														2		オープン
15	19	アーチェリー	2												1		3		オープン
合計得点			40		12.5				49		21.5		45		41		37		
女子順位			4		7				1		6		2		3		5		





## 同窓会事務局より会員の皆様へ

### — 創立30周年を迎えて —

同窓会会長 (5系4期) 後藤 泰 男

(E-mail: goto@i2.inax.co.jp)

同窓生の皆様には、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。また、今年が本学の創立30周年にあたり、同窓生の皆様にも開学30周年記念事業への募金のご案内を発信させていただいております。皆様のあたたかいご協力をよろしくお願い申し上げます。

さて、30周年の節目に大学創設期の思い出を書かせていただきます。私は、創立2年目の春に1年次に入学したわけですが、創設まもない大学では校舎や設備は決して充分ではなく、大学の歩みと同時に築き上げてきたことを思い出します。当時、ピーカーひとつを大事に扱い、研究に使用した設備は徹底的に整備しながら使用していたことや、大学の敷地内にある寮から講義棟までの道のりは雨が降ると長靴が必要な状況であったことが懐かしく思い出されます。一方、当時高校を卒業したばかりの私は、高専から3年次に編入してきた第一期生たちが先生方と一緒に「自分たちの手で新しい大学を創り上げていくのだ」という意気込みを見ながら学生時代を過ごすことができたことは、非常に有意義でした。

高専からの編入を基本とした特色ある大学としてスタートした本学は、独立法人化という激動の中で取り巻く環境も大きく変化してきています。しかしながら、「新しい大学であることを強みとした様々な取り組み」が依然として取り組まれているということを経営協議会等に参加してしばしば実感することがあります。たとえば、国立大学の法人化による大学機関別認証評価へも他校に先立って受審し、大学改革へも積極的に取り組んできていることなどは、開学当時のチャレンジ精神が脈々と受け継がれている事例ではないでしょうか。これも、ひとえに西永学長をリーダーとする本学の先生方はじめ事務職員の皆様の苦勞の賜物であると感じています。

論語の「三十而立、四十而不惑」の言葉どおり独立法人として基礎を確立した母校が、これからの十年でますます発展しつづけるためには、今後も同窓生の皆様のご支援が不可欠となります。今後ともご理解ご支援をよろしくお願い申し上げます。

## 同 窓 生 か ら

### 雲雀が丘から世界へ



1982年 電気電子工学卒  
石川島播磨重工業株式会社  
エネルギープラント事業本部 原子力事業部  
高エネルギーシステム部 部長 川崎 義 則

先日8系の水野教授より同窓会報への寄稿依頼を受け、卒業生の一人として同窓生の皆様への近況報告ならびにこれから世に羽ばたく後輩の皆さんへの応援メッセージを贈ることにしました。

私が豊橋から社会へ出発してかれこれ四半世紀が立ったことに自身驚きを感じています。私達の時代は大学創設時であり大学施設も今のように充実したものではなかったと記憶しています。しかしながら全てが新鮮で、授業、クラブ活動と生き生きしていた学生生活が送れたと実感しています。

本学は創設時より他大学に先んじて産官学を推進し、私自身企業に就職後何年間か大学との共同研究を実施し、学生時代以上に貴重な経験をさせていただきました。

同世代の企業に進まれた皆様は、事業推進、技術開発と様々な分野でマネジメントを発揮されていることと思いますが、近年の大学での研究、企業における事業展開共に、ワールドワイドでの活動はごく自然なものとなっていると思います。

しかしながら研究活動、事業活動共に「競争社会」で厳しい評価を受けることになります。従ってそれぞれの分野においては「独創性、先進性」が求められることは皆さんもご承知のことと思います。

これらの活動の源がその基礎となる技術、知識であり、その原点は大学での基礎研究に支えられていると信じています。これから社会へ旅立たれる皆さんは、この豊橋で貴重な経験をしっかりと積み、社会での応用問題に立ち向かわれることを希望します。

先日業務で韓国を訪問しました。相手先の若手技術者の方との雑談の中で、その方が豊橋にて博士課程を修了されたことをお聞きし、驚きと共に母校の卒業生が世界で活躍していることに喜びを感じました。

同世代の皆さんもそろそろ五十路に手が届く頃になったと思います。厳しい社会で生き抜くためにも、お互いに健康でいましょう。

最後に、豊橋技術科学大学が世界への技術の発信地として益々発展していくことを卒業生の一人として期待しております。



・・・・・・・・ 同窓会事業報告および予定（平成17年度～平成18年度） ・・・・・・・・

### 1. 会報の発行

同窓会報第23号を平成17年12月に発行・発送しました。印刷部数は9000部、発行部数は8500部、残りは会報担当、事務局および各系役員にて保管用ならびに予備としました。平成18年度の印刷部数は9500部、発行部数は約9000部を予定しています。

### 2. 卒業記念パーティーの開催

平成18年3月22日に豊橋勤労福祉会館（アイプラザ豊橋）にて行われた大学院修了式・学部卒業式後に、同会館体育館にて学友会との共催で卒業記念パーティーを開催しました。当日は佐藤同窓会副会長が列席し、卒業・修了生へ祝辞を贈りました。平成18年度も例年通り行う予定です。

### 3. 学生活動への援助

本学学生課と共同でクラブ援助を行いました。報告は本文をご覧ください。

### 4. 役員会の開催

平成18年2月21日に豊橋技術科学大学B-201会議室において臨時役員会、同年4月22日に、大学D-5F、2系会議室にて役員会をそれぞれ開催し、本年度の活動予定や30周年記念事業への対応、大学との名簿共同管理に関しての話し合いました。なお、議事録はホームページ上 (<http://www.tut-ob.org/gijiroku.htm>) でも参照可能です。

### 5. 西永学長との懇談

平成18年度末を目標に、西永学長（本会名誉顧問）との懇談を行う予定です。この懇談会は今後の同窓会の活性化策などについての意見交換会を行うと同時に、次期同窓会会長との引き継ぎも兼ねて開催する計画です。

### 6. 大学と名簿共同管理

同窓会が管理している会員名簿の更なる充実と効率化のために、大学側との共同管理が提案され、大学との間に「住所録管理に関する覚書」にサインしました（本文中に全文掲載しております）。

#### 平成18年度同窓会役員（平成18年4月現在）

会 長：後藤 泰男（株式会社INAX）

副 会 長：佐藤 裕久（豊橋技科大物質工学系）

事 務 局：武藤 浩行（豊橋技科大物質工学系）

機械システム工学系（1系 援助活動担当） 感本広文 関下信正 山本高久

生産システム工学系（2系 名簿担当） 三好孝典 戸高義一 安部洋平 阿部洋平 山田基宏 野田善之

電気・電子工学系（3系 HP, ML担当） 稲田亮史 村上義信 桶真一郎 内海淳志

情報工学系（4系 総会・役員会担当） 野口健太郎 福田浩士 武田善行 向井智彦

物質工学系（5系 事務局担当） 大北博宣 武藤浩行 齊戸美弘

建設工学系（6系 会報担当） 谷 武 細田智久 中澤祥二

知識情報工学系（7系 会計担当） 加藤博明 山田 実 酒井浩之

エコロジー工学系（8系 会計担当） 倉田学児 南 亘

名 誉 顧 問 豊橋技術科学大学学長 西永 頌

\*各系役員へのメールは、admin-#@tut-ob.org #に系番号を入れてください（1系ならadmin-1@tut-ob.org）

## 会費納入のお知らせ

本会の会費は、平成4年12月から終身会費制となりました。つきましては、平成5年3月以降の卒業・修了生で入会費(5,000円)または、終身会費(10,000円)が未納の方は、該当する系の振込先へ納入下さいますようお願い申し上げます。

**1系：**三井住友銀行 豊橋支店 普通預金  
口座番号 791348  
加入者名 豊橋技科大第1工学系同窓会

**2系：**三井住友銀行 豊橋支店 普通預金  
口座番号 773671  
加入者名 豊友会

**3系：**三井住友銀行 豊橋支店 普通預金  
口座番号 884432  
加入者名 豊橋技術科学大学3・4系同窓会

**4系：**三井住友銀行 豊橋支店 普通預金  
口座番号 884432  
加入者名 豊橋技術科学大学3・4系同窓会

**5系：**三井住友銀行 豊橋支店 普通預金  
口座番号 791362  
加入者名 物質工学系同窓会

**6系：**三井住友銀行 豊橋支店 普通預金  
口座番号 813330  
加入者名 建設工学同窓会

**7系：**三井住友銀行 豊橋支店 普通預金  
口座番号 884420  
加入者名 豊橋技術科学大学7系同窓会

**8系：**三井住友銀行 豊橋支店 普通預金  
口座番号 884418  
加入者名 豊橋技術科学大学8系同窓会

## 住所変更手続きのお願い

同窓会報を発送する際、「宛先不明」となってこちらへ返送される冊数が年々増加傾向にあります。転居の際や自治体合併などの影響で住所が変更された際には、同窓会事務局(TEL: 0532-47-0111)へご一報くださるようお願い申し上げます。また、ホームページ上(<http://www.tut-ob.org/address.htm>)でも、住所変更用フォームを利用して、電子メールで手続きができますので、こちらもご利用ください。

同窓会事務局では、下記の個人情報管理ポリシーに基づき、同窓会員の皆様の個人情報の安全管理に努めております。同窓会名簿のより一層の充実にご協力をお願いいたします。

## 同窓会 個人情報管理ポリシー

- ・同窓会員の個人情報は、担当の同窓会役員が責任を持って管理します。
- ・個人情報の開示依頼があった場合には、依頼者の身元および依頼理由を確認し、必要とする情報のみを開示します。なお、原則として、同窓生および大学関係者以外には開示しません。

※個人情報の非開示や削除をご希望の方は、同窓会事務局または各系役員までご連絡下さい。

## 同窓会報への広告

掲載広告を募集しています。詳しくは同窓会事務局までお問い合わせください。なお、広告によって発生したトラブルなどにつきまして、同窓会では一切の責任を負いません。

# 豊橋技術科学大学同窓生住所録の管理に関する覚書

国立大学法人豊橋技術科学大学（以下「甲」という。）と豊橋技術科学大学同窓会（以下「乙」という。）は、豊橋技術科学大学同窓生に係る住所情報（以下「情報」という。）の管理に関し、次のとおり覚書を締結する。

## （目的）

第1 豊橋技術科学大学同窓生住所録を乙が作成し、甲・乙が共同で管理・利用することにより、情報の統一化、情報収集の効率化及び情報の有意義化を図り、相互連携の活性化に繋げることを目的とする。

## （情報の範囲）

第2 この覚書の対象となる情報は、次のとおりとする。

- (1) 氏名
- (2) 勤務先及び勤務先の住所（電話番号、e-mail アドレスを含む。）
- (3) 現住所（電話番号、e-mail アドレスを含む。）
- (4) 帰省先住所（電話番号を含む。）
- (5) 所属研究室
- (6) 出身校
- (7) その他、甲・乙双方が必要と認めた情報

## （情報提供の範囲）

第3 甲・乙は、組織として知り得た情報を相互に提供する。

2 甲又は乙が、同窓生本人以外から情報を得た場合、同窓生本人に利用目的等必要な事項を提示した上で相互に提供する。

3 甲・乙は、各々、同窓生からの個人情報に関する受付窓口を設けるものとする。

## （情報の管理）

第4 情報の管理は、甲・乙が行うものとする。

2 取得した情報は、次の場合を除き、第三者には開示しないものとする。

- ア 事前に同窓生本人の同意がある場合
- イ 警察・検察・裁判所などの法的機関から提供を要求された場合
- ウ 法令などにより要求された場合

## （情報の更新作業）

第5 情報の更新作業は、乙が行うものとし、更新は乙の指定する日程で、原則年1回行うものとする。ただし、乙が認めた場合は、又は同窓生から申し出があった場合は、必要に応じて随時更新することができるものとする。

## （情報の利用）

第6 情報は、甲・乙の事業、甲と乙の共同事業などの案内等に利用することができるものとする。ただし、同窓生から甲・乙どちらか一方、あるいは双方へ個人情報の利用を拒否する申し出があったときは、拒否された個人情報の利用を禁じるものとする。

2 前項の利用目的以外に利用する場合は、双方協議の上、利用するものとする。

3 甲・乙は、個人情報の利用記録を作成し、事業年度終了後1年間保存するものとする。

## （情報を利用する際の責任の所在）

第7 情報の利用にあたっては、原則として、主に利用する側が責務を負うものとする。ただし、主に利用する側に同封物を依頼した場合は、依頼した側がその同封物についての準備と問題発生時の対処責任を負うものとする。

## （覚書の有効期限）

第8 本覚書の有効期限は、本覚書締結日から平成19年3月31日とする。ただし、有効期限末日までに甲・乙何れからも解除の申し出がない場合には、本覚書は同一条件をもってさらに1年間継続するものとする。

以後も同様とする。

## （その他）

第9 この覚書に定めのない事項又は、この覚書に疑義が生じたときは、甲・乙協議の上、これを解決するものとする。

この覚書の成立を証するため本書2通を作成し、甲・乙記名押印の上各1通を保持する。

平成18年3月9日

甲 国立大学法人豊橋技術科学大学長	西 永 頌
乙 豊橋技術科学大学同窓会長	後 藤 泰 男

## 同窓会平成 17 年度収支報告および平成 18 年度予算案

項 目	平成 17 年度予算案	平成 17 年度決算	平成 18 年度予算案
<b>■収入の部</b>			
前年度繰越金	11,130,091	11,130,091	11,680,316
入会金	2,235,000	1,950,000	2,000,000
会費	4,470,000	3,900,000	4,000,000
同窓会報広告掲載料	—	80,000	—
預金利息	800	762	800
小計	6,705,800	5,930,762	6,000,800
収入合計	17,835,891	17,060,853	17,681,116
<b>■支出の部</b>			
会報経費	750,000	757,060	750,000
役員会経費	65,000	100,840	100,000
庶務経費	100,000	14,087	50,000
学生活動援助金	300,000	300,000	300,000
卒業記念パーティ援助金	250,000	255,420	250,000
Web 関連経費	53,130	53,130	53,130
各系への会費配分金	4,470,000	3,900,000	4,000,000
同窓会懇親会	250,000	—	250,000
30周年事業協力金	—	—	1,000,000
小計	6,238,130	5,380,537	6,753,130
次年度繰越金	11,597,761	11,680,316	10,927,986
支出合計	17,835,891	17,060,853	17,681,116

## 学生活動への援助報告

同窓会では現在、同窓会活動の活性化・効率化を目的に大学との連携強化を進めております。その一環として、例年、同窓会だけで実施しておりました学生活動援助を、本年度より大学運営委員会の一つである学生生活委員会と共同で実施することとなりました。援助総額200万円（内、同窓会は30万円を負担）として募集を行い、申請書を基に活動状況、支援の必要度を精査した上で20団体への支援を決定致しました。同窓会単独で援助を実施していた団体数は各年4-5団体程度であることを考えますと、今回の大学との連携により多くの団体への援助を行うことが出来、ひいては学生活動の活性化にこれまで以上に寄与できたのではないかと考えております。以下に活動報告の一部および援助団体一覧を掲載いたします。会員の皆様にご理解、ご協力を賜りながら、今後とも学生活動援助を行って参りたいと考えております。

（援助活動担当者一同）

### 柔道部

知識情報工学課程 4年 田村 健

この度は、柔道部に援助して頂きまして、誠にありがとうございます。

援助金は、タイマーの購入に充てさせていただきました。これまで、タイマーは剣道部にお借りしていたので、迷惑をかけずに、活動を行うことができました。大事に使わせていただきます。

柔道部は現在17名で活動しております。練習は火曜、金曜の週に2回で、やる気のある者は、部活動以外でも愛知大学や市立の武道館で練習をしております。しかし、研究等で練習に参加できる人数は少なく、年々部員不足の問題は深刻になっています。それでも、日頃の練習の成果で、今年の東三河地区の市民大会では、団体で優勝することができました。秋に行われる、豊橋市民スポーツ祭でも、優勝を目指して、励みたいと思います。

やはり他の大学に比べると、人数も環境も劣りますが、支援していただいたことを忘れず、地道に活動して、日々精進していきたいと思っております。今後の柔道部の活躍にご期待ください。

### 自動車部

機械システム工学専攻 1年 里川 玄樹

ただ今、豊橋技科大で一番話題を呼んでいる自動車研究部です。この度は、私共の活動を支援して頂き、誠にありがとうございました。

今年度の自動車研究部は、新入生が大勢入部し、全24名で活動しております。今年の9月13日～16日の4日間、静岡県袋井市にあるエコパという総合公園で開催される『第4回全日本学生フォーミュラ大会』に出場するため、現在、朝から晩まで毎日製作活動をしております。創部から現在まで、多くの支援していただいている企業様や協力していただいている皆様のお陰で、色々な問題を乗り越え、去る8月27日に、スポンサーであるトピー工業様のテストコースでシェイクダウンを行いました。本大会までの残り2週間、悔いが残らないよう部員一同、精一杯頑張る

うと思っておりますので、今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。

また、自動車研究部の活動状況やスポンサー様の情報はホームページで随時配信しておりますので、是非ともご覧ください。<http://tut-f.com/>



### トライアスロン部

物質工学課程 3年 大谷 真吾

この度は、我々トライアスロン部に援助をしていただきありがとうございました。

トライアスロンはスイム・バイク・ランの三種目を行うとてもハードなイメージの強い競技で、例年は部員の集まりもそれほどよくありませんでした。しかし、去年・今年と必死の部員集めのかいあって20人を超す部になりました。多くなった部員に共用自転車の数が足りなくなり練習が全員でできない状態になってしまい困っていたのですが、この度の援助により問題が解消することができました。

我々トライアスロン部は週に1回土曜日に練習を行っていますが、その他の日には各部員がレベルアップのために個人練習をし頑張っています。

### 豊橋日曜学校

機械システム工学課程 4年 大田 一

豊橋日曜学校です。この度は私たちのサークルに援助をして頂き、誠にありがとうございます。日曜学校部員一同、

心よりお礼申し上げます。

この豊橋日曜学校は知的障害を持つ子ども達と毎月の日曜日に、子どもと一緒にさまざまな事を体験する事を目的として設立されたボランティアサークルで、今年で設立から 33 年目を迎えました。今年には 16 名の新入部員を迎えることができ、現在は技科大以外に愛知大学といった他の大学と合同で企画、運営を行っています。これらを学生のみで行うという事は相当に大変な事ですが、この地道な活動が評価され過去にいくつもの賞を受賞することができました。また、今年も「中日福祉ボランティア賞」を受賞することができました。これも歴代の卒業生たちが築きあげた結果だと思います。これからも積極的に活動を行っていきたいと思います。

今回の援助金につきましては、運動等で使用するワイヤレスマイクや活動日に使用する CD ラジカセなど、現在老朽化してしまった機材の交換に当てさせていただきます。今後ともご支援のほどをよろしくお願いいたします。

## TUT ロボコン同好会

電気電子工学課程 3 年 三嶋 崇

TUT ロボコン同好会です。この度は我々ロボコン同好会に援助をして頂き誠にありがとうございました。部員一同、心より感謝しています。現在、我々は学部生 28 人、修士 13 人、計 31 人で活動しています。活動日と活動時間は特に決まっていますが、基本的に毎日活動しています。

2006 年、我々は NHK 大学ロボコン 2006 でベスト 4 になり技術賞を受賞しました。NHK 大学ロボコン 2006 プロジェクトは 2005 年 10 月にルールが発表された時から開始しました。それから何度かミーティングを経て同年 12 月の書類審査に向けてロボットの書類を 3 つ作り提出しました。このうちの 1 つが書類審査に通過しました。しかし、NHK 大学ロボコン 2006 に出場するには 4 月初旬のビデオ審査を通過しなければなりません。1 月から 4 月までの三ヶ月間、春休み返上で夜遅くまでロボットを作りました。そしてビデオ審査を通過しロボットをより強化して 6 月の大会で上記の成績を収めました。

今回、援助して頂いたバッテリーを使って、パワーアップしたロボットを作って来年の大会では優勝を目指します。ロボコン同好会の今後の活躍にご期待ください。

## 吹奏楽団

情報工学課程 4 年 須賀 祐介

この度は同窓会より援助を頂き、誠にありがとうございました。団員一同、心よりお礼申し上げます。

今年度、吹奏楽団は 20 名近くの新た団員を迎え、総勢

70 名での活動となりました。吹奏楽団はここ数年、団員数が増加し、より活発な活動が行えるようになってきました。毎年開催しております定期演奏会、他大学との合同演奏会、本学の入学式、卒業式での祝賀演奏、技科大祭での演奏、それに加え、地域の皆様からの依頼演奏などたくさん演奏の機会を頂けるようになりました。しかし、団員数の増加によって運営面の苦労も増え、練習場所や楽器が足りなくなるといった問題を抱えました。年度当初は、楽器調達や練習調整など工夫に迫られる事態となりました。そのような状況で、同窓会より援助を頂き、バスクラリネット 1 本を購入させていただくことになりました。このような高額物品の購入はなかなか難しいため、大変助かりました。今後も、地域や大学のイベントに貢献できるよう、団員一同頑張っていきたいと思います。

## アカペラサークル

物質工学課程 4 年 萩原 啓介

今回、課外活動活性化経費について、当サークルは金 10 万円が配分されました。

配分された予算は、開学 30 周年記念事業として技科大祭イベントに、アカペラグループ「ダイナマイトしゃかりきサーカス」を招くための謝礼金の一部として使用させていただきます。「ダイナマイトしゃかりきサーカス」は、関西地区を拠点に活動しているアカペラボーカルグループであり、豊橋でも年に数回のコンサートを行っています。近年はアカペラコンサートだけでなく、ミュージカルや舞台など、その活動は多岐に渡っています。

リーダーの KWANI 氏は、当サークルの創立メンバーの一人であり、技科大祭でのステージを素晴らしいものにしてくれると思いますので、「ダイナマイトしゃかりきサーカス」のステージイベントにご期待ください。

## 援助団体一覧（順不同）

アカペラサークル J.U.S.T.	アニメーション&コミック研究会
空手部	自動車部
柔道部	少林寺拳法部
吹奏楽団	卓球部
豊橋日曜学校	トライアスロン部
軟式野球部	二輪部
バスケットボール部	バトミントン部
バレー部	武道部
ロボコン同好会	合気道同好会
自然観察愛好会	総合文化部



## 「豊橋技術科学大学三十年史 確かな礎から未来へ」を是非ご覧ください。

本学は、1976年10月に設立され、今年で開学30周年を迎えました。大学は、これを記念した三十年史を作成し、全頁を大学の開学30周年記念ホームページ (<http://www.tut.ac.jp/30th/>) の中にPDF形式の電子データとして掲載しています。同窓生の皆様には、是非上記のホームページから三十年史をご覧ください。

なお、三十年史の電子書籍版CDを希望される方は、出身系の同窓会から無料で郵送いたしますので、「三十年史CD希望」と共に出身系や氏名などの連絡事項を明記していただき、下記のいずれかにご連絡ください。

### 連絡先

email [admin-all@tut-ob.org](mailto:admin-all@tut-ob.org) fax 0532-44-6831

郵送 441-8580 豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1 建設工学同窓会 宛

### 連絡していただきたい事項

出身系、卒業年度、氏名、郵便番号、住所